

茨城県教育財団文化財調査報告第351集

児松遺跡 2

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成24年3月

国土交通省常総国道事務所
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第351集

児^こ松^{まつ}遺跡 2

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成24年3月

国土交通省常総国道事務所
財団法人茨城県教育財団



調査区遠景（北側上空から）



第12号住居跡 土器片囲炉

序

茨城県では、県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性を生かした振興を図るために、高規格幹線道路などの根幹的な県土基盤の整備とともに、広域的な交通ネットワークの整備を推進しています。

その一環として国土交通省が整備を推進している首都圏中央連絡自動車道は、都心部と中核都市を結ぶ3環状9放射の道路ネットワークです。道路網の整備により、首都圏の交通混雑が緩和されるほか、環境改善、経済効率の向上など、様々な効果が期待されます。しかしながら、その事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である児松遺跡が所在し、記録保存の措置を講ずる必要があるため、当財団が国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から埋蔵文化財発掘調査の委託を受け、平成19年1月からこれを実施しました。そのうち、平成19年に実施した調査の成果については、既に『茨城県教育財団文化財調査報告』第286集として平成20年3月に刊行したところです。

本書は、平成21年2月から3月及び平成21年7月の3か月間に行われた調査の成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者であります国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、稲敷市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成24年3月

財団法人茨城県教育財団
理事長 鈴木 欣一

例 言

- 1 本書は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成20・21年度に発掘調査を実施した茨城県稲敷市江戸崎字原乙460番地ほかに所在する兎松遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査	平成21年2月1日～3月31日
	平成21年7月1日～7月31日
整理	平成23年4月1日～7月31日
- 3 発掘調査は、調査課長池田晃一のもと、以下の者が担当した。

平成20年度	
首席調査員兼班長	三谷 正
主任調査員	大関 武
主任調査員	市村俊英
平成21年度	
首席調査員兼班長	成島一也
主任調査員	市村俊英
調査員	大久保隆史
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長原信田正夫のもと、以下の者が担当した。

主任調査員	小川貴行	第3章第3節～第4節
調査員	松林秀和	第1章～第3章第2節
- 5 本書を作成するにあたり、当遺跡から出土した貝の同定及び分析については国立歴史民俗博物館教授西本豊弘氏、石材鑑定については独立行政法人産業技術総合研究所地質標本館名誉館長青木正博氏にご指導いただいた。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、 $X = -5,600$ m、 $Y = +43,120$ mの交点を基準点 (A 1a1) とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C…; 西から東へ1, 2, 3…とし、「A 1区」「B 2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa, b, c…j, 西から東へ1, 2, 3…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a1区」、「B 2b2区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 SD - 溝跡 SI - 堅穴住居跡 SK - 土坑・墓坑の可能性ある土坑 TP - 陥し穴
遺物 DP - 土製品 G - ガラス製品 M - 金属製品 Q - 石器・石製品 TP - 拓本記録土器
土層 K - 攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は500分の1、各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・施軸		炉・火床面・繊維土器断面
	炭化材・貝層		柱あたり
	●土器		○土製品
	□石器・石製品		△金属製品
	☆ガラス製品		---- 硬化面

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

- (1) 現存値は () を、推定値は [] を付して示した。計測値の単位はm, cm, kg, gで示した。
- (2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。
- (3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

- 6 堅穴住居跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 $N - 10^{\circ} - E$ ）。

- 7 遺構番号については、各遺構毎に既調査時の最終番号の次から付した。

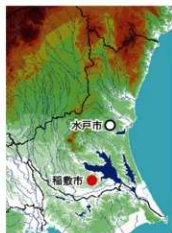
目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
見松遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	4
第2章 位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査の成果	13
第1節 調査の概要	13
第2節 基本層序	13
第3節 遺構と遺物	14
1 縄文時代の遺構と遺物	14
(1) 竪穴住居跡	14
(2) 土坑	22
2 弥生時代の遺構と遺物	40
竪穴住居跡	40
3 古墳時代の遺構と遺物	56
竪穴住居跡	56
4 中世・近世の遺構と遺物	60
(1) 墓坑の可能性のある土坑	60
(2) 溝跡	63
5 その他の遺構と遺物	66
(1) 土坑	66
(2) 溝跡	81
(3) 遺構外出土遺物	81
第4節 まとめ	84
写真図版	
抄 録	

こまつ 児松遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

児松遺跡は、稲敷市（旧江戸崎町）の西部に位置し、沼里川と小野川に挟まれた標高20mほどの舌状台地縁辺部に立地しています。一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事にともない、遺跡の内容を記録して保存するため、茨城県教育財団が平成18年度の第1次調査に続き、平成20・21年度に第2次調査を行いました。



調査の内容

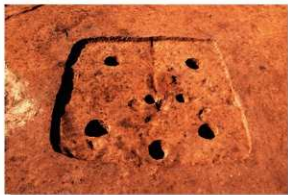
第2次調査では2,631㎡を調査し、縄文時代中期後葉から後期初頭（約4,000年前）、弥生時代後期（約1,800年前）、古墳時代前期（約1,700年前）の集落跡がそれぞれ確認できました。主な出土遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、土製品（土器片錘・土器片円盤・紡錘車・土玉）、石器（鎌・磨石・石錘・凹石）、ガラス製品（小玉）、貝（ハマグリ・ヤマトシジミ）などです。



北西上空から望む当遺跡（手前が今回の調査区）



土器片囲炉を有する縄文時代の住居跡



炉と柱の跡が残る弥生時代の住居跡



弥生土器と紡錘車



第11号溝跡の調査風景

調査の結果

第1次調査では、縄文時代中期後葉の^{たてあなじゅうきよあと}堅穴住居跡と土坑が確認されました。今回の調査では、新たに縄文時代後期初頭の堅穴住居跡と土坑、弥生時代・古墳時代の堅穴住居跡が確認でき、集落は断続的に営まれ、北西側に広がりを持っていることが確認できました。

縄文時代の住居跡からは、県南部では調査例が多い、土器片で炉を構築した土器片囲炉が確認できました。弥生時代の住居跡は、後期前葉を主体として7軒が確認できました。弥生時代の遺物は、土器の他に糸を紡ぐ^{つし}道具の紡錘車や^{そうしよくひん}装飾品のガラス製小玉が出土しました。

また、縄文時代の土坑から確認された貝はハマグリやシオフキで、古墳時代の住居跡から確認された貝はヤマトシジミです。これらの貝は、霞ヶ浦が淡水化に至る過程を示した資料であり、^{せんがく}先学の研究結果を裏付けています。

第1章 調 査 経 緯

第1節 調査に至る経緯

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所は、稲敷市において一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業を進めている。

平成16年9月29日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成17年3月8日に現地踏査を、平成18年7月4・5日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成18年8月10日、茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、事業地内に見松遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成18年10月12日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条に基づき、土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成18年10月13日、茨城県教育委員会教育長は現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、見松遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

平成18年10月23日、茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長及び財団法人茨城県教育財団理事長に対して、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業に係わる平成18年度埋蔵文化財発掘調査計画の変更についての協議書を提出した。平成18年10月24日、財団法人茨城県教育財団理事長は、茨城県教育委員会教育長あてに、見松遺跡の発掘調査計画の変更について同意する旨の回答をし、平成18年10月26日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに、見松遺跡の発掘調査計画の変更について同意する旨の回答があった。

財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査業務について委託を受け、平成19年1月1日から3月31日まで第1次調査を実施した。

平成19年3月15・16日、茨城県教育委員会は、見松遺跡の試掘調査を再度実施した。平成19年3月23日、茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、事業地内に見松遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成20年2月25日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成20年2月26日、茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、見松遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査業務について委託を受け、平成21年2月1日から3月31日、及び平成21年7月1日から7月31日まで第2次調査を実施した。

第2節 調査経過

第2次調査は、平成21年2月1日から3月31日、及び平成21年7月1日から7月31日までの3か月間にあわせて実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程	期間	平成20年度				平成21年度		
		2月		3月		7月		
調査 調査 遺構	準備 確認	■					■	
遺構調査		■				■		
遺物 写真	洗浄 整理	■				■		
補足 調査 概	収					■		■

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

児松遺跡は、茨城県稲敷市江戸崎字原乙460番地ほかに所在している。

遺跡が所在する稲敷市は、茨城県の南部に位置し、北は霞ヶ浦南岸に面し、東は横利根川、南は利根川を挟んで千葉県と境を接している。地形は、稲敷台地と呼ばれる標高20～30mの洪積台地と、小野川を含む霞ヶ浦水系と利根川水系による沖積低地からなっている。市域の稲敷台地は、小野川右岸の神宮寺台地と左岸の江戸崎台地に分かれ、いずれの台地上もごく緩やかな起伏をもち、縁辺部は多数の谷津が複雑に入り組み、樹枝状に開析されている。稲敷台地の地層は、成田層を基盤として、成田層下部、成田層上部、龍ヶ崎砂礫層、常総粘土層、関東ローム層、表土層の順に堆積している。堆積状況は、水平かつ単調である¹⁾。

当遺跡は、小野川と沼里川に挟まれた標高20mほどの舌状台地縁辺部に立地しており、東西方向になだらかに傾斜している。第2次調査の調査区は遺跡の西部にあたり、調査前の現況は畑地、栗林、宅地である。

第2節 歴史的環境

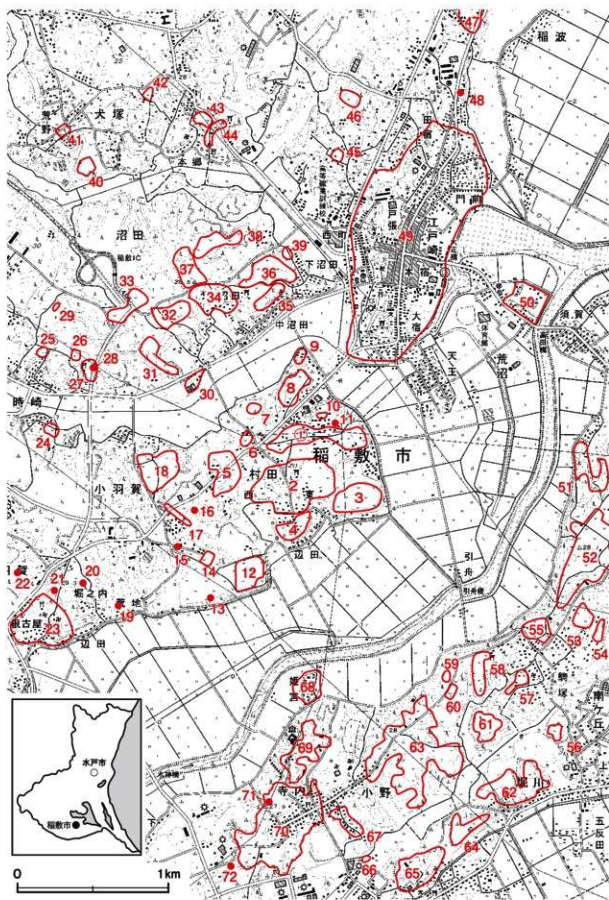
児松遺跡の所在する地域は、台地、低地、河川、湖沼と変化に富んだ自然環境を示し、旧石器時代から近世までの遺跡が多数分布している。ここでは、当遺跡周辺に分布している遺跡を中心に概要を記述する。

旧石器時代の遺跡は、当遺跡と隣接する台地南側の中峰遺跡(2)で、石器集中地点5か所、炭化物・焼土集中地点が確認されている。彫器、ナイフ形石器を含む359点の石器が出土しており、石器製作跡と考えられている²⁾。また当遺跡でも第1次調査で、尖頭器と細石刃が出土している³⁾。

縄文時代になると遺跡数が増加し、当遺跡周辺でも、村田貝塚(5)、椎塚貝塚(51)、神田道貝塚(18)、沼田貝塚(37)、吹上貝塚(47)など多数の貝塚が確認されている。村田貝塚は、鹹水産のハマグリ、シオフキ、アカニシ等を主体とした前期から中期の貝塚であり⁴⁾、縄文海進時には、今の霞ヶ浦水域や低地にも海が進入したことがうかがえる。後期の椎塚貝塚は、獣骨製のヤスがタイの頭骨に突き刺さった状態で出土したことで知られている⁵⁾。また、桶の古古墳群⁶⁾、思川遺跡⁷⁾で早期の炉穴、豆葉師北遺跡⁸⁾(7)で早期から前期・晩期の住居跡、東前遺跡⁹⁾(27)、中佐倉貝塚¹⁰⁾で前期の住居跡と地点貝塚、中峰遺跡で中期の土坑がそれぞれ確認されている。当遺跡でも第1次調査にて、中期後葉の住居跡1軒のほか、陥し穴、土坑、遺物包含層が確認されている。

弥生時代の遺跡は、近年、後期集落の調査例が増加している。小野川左岸では堂ノ上遺跡¹¹⁾(3)、沼里川左岸では塚本遺跡¹²⁾(31)、霞ヶ浦「江戸崎入り」左岸では桶の台古墳群、大日山古墳群¹³⁾、思川遺跡、秋平遺跡¹⁴⁾で、住居跡がそれぞれ確認されている。この内、大日山古墳群は、土器の様相から集落形成の時期が中期後葉まで遡ることが判明している。また、思川久保遺跡¹⁵⁾でも当該期の住居跡が確認されている。

古墳時代の遺跡は、台地上や縁辺部に集落跡と古墳が隣接するように点在している。小野川左岸では、堂ノ上遺跡で5世紀後葉から6世紀前葉にかけての住居跡を主体とした集落跡が確認されており、竈渾入期の集落の様相が明らかになっている。また、中峰遺跡では前・後期の住居跡が確認されている。沼里川左岸では、東前遺跡で前期から後期、塚本遺跡で中期、沼里川を挟み塚本遺跡の対岸に位置する豆葉師北遺跡で前期の住居



第1図 見松遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院25,000分の1「江戸崎」)

表1 児松遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
①	児松遺跡	○	○	○	○		○	○	37	沼田貝塚		○					
2	中峰遺跡	○	○		○	○	○		38	大夫屋敷遺跡				○	○		
3	堂ノ上遺跡		○	○		○			39	辺田後遺跡				○	○		
4	塙遺跡		○				○		40	大門遺跡		○	○				
5	村田貝塚		○		○		○		41	荒野遺跡		○	○				
6	豆栗師遺跡		○		○		○		42	八幡台遺跡		○					
7	豆栗師北遺跡		○		○		○		43	明神貝塚		○					
8	狸崎遺跡		○		○				44	犬塚遺跡						○	○
9	狸崎北遺跡				○				45	新山遺跡		○					
10	原南遺跡		○						46	新山西遺跡				○	○	○	
11	見晴塚古墳				○				47	吹上貝塚		○	○				
12	栗山遺跡		○		○				48	外浦古墳				○			
13	亀ヶ谷城古墳				○				49	江戸崎城跡						○	○
14	羽賀栗山遺跡		○						50	御城遺跡						○	
15	大日古墳				○				51	椎塚貝塚		○					
16	山後古墳				○				52	宮前遺跡		○		○	○		
17	山後遺跡						○		53	代遺跡		○		○			
18	神田道具塚		○						54	奥山遺跡		○		○			
19	荒地平古墳				○				55	胸塚貝塚		○		○	○		
20	荒地古墳				○				56	天王台遺跡				○			
21	中城古墳				○				57	原屋敷遺跡				○		○	
22	木納場古墳群				○				58	胸塚台上遺跡		○		○	○		
23	羽賀城跡						○		59	大塚山古墳				○			○
24	神明平遺跡				○				60	胸塚荒久遺跡		○		○			
25	時崎平遺跡				○				61	原山遺跡				○			
26	宮後遺跡				○				62	八幡台遺跡 <small>(旧跡)</small>		○	○	○	○		
27	東前遺跡		○	○	○	○			63	小野遺跡		○		○	○	○	○
28	東前古墳群				○				64	秋葉台遺跡				○	○		
29	原久保遺跡				○				65	東桑城跡				○	○	○	
30	浅間山古墳群				○				66	池遺跡				○			
31	塚本遺跡			○	○	○	○		67	勝ヶ台遺跡		○		○	○		
32	中道遺跡		○		○	○	○		68	姫宮遺跡				○		○	
33	自機前遺跡				○	○	○		69	湯崎遺跡		○		○	○		
34	沼田遺跡						○		70	寺内遺跡		○		○	○	○	○
35	亀台古墳群			○					71	道成寺貝塚		○		○			
36	柿作台遺跡				○				72	伊作津貝塚		○					

跡が、それぞれ確認されている。霞ヶ浦「江戸崎入り」左岸では、池平遺跡¹⁶⁾で前期から後期、大日山古墳群、中佐倉貝塚で中・後期、二の宮貝塚¹⁷⁾、思川遺跡、秋平遺跡で後期の住居跡がそれぞれ確認されている。また、桶の台古墳群では前期から後期の住居跡と、後期の古墳群が確認されている。この古墳群は、全長約40mの前方後円墳が主墳で、箱式石棺が確認されている。水神塚古墳では内部赤彩の箱式石棺が確認され、出土した武器・馬具などの副葬品から6世紀前葉の築造と考えられている¹⁸⁾。

奈良・平安時代の当地は信太郡に属し、当遺跡が所在する小野川左岸一帯は駅家郷内に比定されている¹⁹⁾。当遺跡の南西方約4kmに所在する下君山廃寺は、信太郡の郡寺跡と推定されている²⁰⁾。当遺跡周辺では、沼里川左岸の塚本遺跡・東前遺跡で9世紀、小野川左岸の堂ノ上遺跡で9・10世紀の住居跡が、それぞれ確認されている。

平安時代末期には古代の郡の解体が進み、信太郡は小野川を挟んで東に東条庄、西に信太庄がそれぞれ立庄され、中世へとつながっていく。城館遺跡は、利根川左岸の東条城跡⁽⁶⁵⁾、霞ヶ浦南岸の神宮寺城跡、小野川左岸の羽賀城跡⁽²³⁾、御城遺跡⁽⁵⁰⁾、二重堀遺跡などが存在している。また、当遺跡と隣接する中峰遺跡では、地下式坑、火葬土坑、墓坑などが確認され、墓域と考えられている。

南北朝時代末期には当地は山上上杉氏の支配下におかれ、やがてその被官である土岐原氏が当地に赴任する。小野川左岸の江戸崎城跡⁽⁴⁹⁾は土岐原(土岐)氏の居城跡で、江戸崎城を本拠に霞ヶ浦対岸の行方一帯まで勢力を有した常南の地頭領主として知られている。しかし、北条氏と結んだため、天正18(1590)年には豊臣秀吉の関東平定の余波を受けて、江戸崎城を明け渡す。その後、佐竹義宣の実弟芦名盛重が城主となるが、慶長7(1602)年に徳川家康によって秋田角館に移封となる。盛重の移封後は青山土佐俊が城主となるが、間もなく江戸崎城は廃城となった。

※ 文中の〈 〉内の番号は、表1、第1図の該当遺跡番号と同じである。

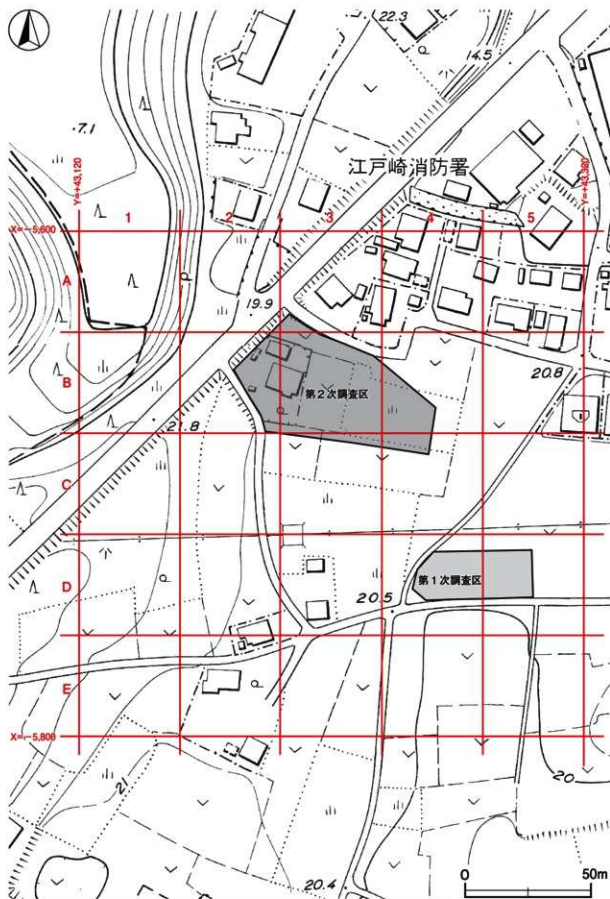
註

- 1) 蜂須紀夫編『茨城県 地学のガイド』コロナ社 1977年8月
- 2) 本橋弘巳「中峰遺跡 見松遺跡 一般国道468号線首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団調査報告』第286集 2008年3月
- 3) 註2)に同じ
- 4) 茨城県史編さん第一部会原始古代史専門委員会編『茨城県史料 考古資料編-先土器・縄文時代-』茨城県 1979年3月
- 5) 註4)に同じ
- 6) 関宮正光・高野浩之・平岡和夫「桶の台古墳群 第2・3次発掘調査報告書」江戸崎町教育委員会 2001年3月
- 7) 鈴木英治「一般県道新川江戸崎繞道改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 二の宮貝塚・大日山古墳群・思川遺跡」『茨城県教育財団調査報告』第65集 1991年3月
- 8) 芳賀友博・小野政美「塚本遺跡 豆葉師北遺跡 谷ツ道遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書 一般国道6号牛久土浦バイパス建設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団調査報告』第310集 2009年3月
- 9) 早川麗司・作山智彦「東前遺跡 主要地方道江戸崎新利根橋バイパス建設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団調査報告』第318集 2009年3月
- 10) 大賀健・平田満男・小林園子「秋平遺跡・池平遺跡・中佐倉貝塚 ザ・インベリアル・ゴルフクラブ建設に伴う埋蔵文化財調査報告書」江戸崎町佐倉地区道跡発掘調査会 1999年7月
- 11) 前高直人・作山智彦・早川麗司「堂ノ上遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団調査報告』第309集 2009年3月

- 12) 註8) に同じ
- 13) 註7) に同じ
- 14) 註10) に同じ
- 15) 茨城県教育庁文化課編『茨城県道跡・古墳発掘調査報告書Ⅶ（平成2・3年度）』茨城県教育委員会 1993年3月
- 16) 註10) に同じ
- 17) 註7) に同じ
- 18) 間宮正光『郷宮古墳群1・2号墳・水神塚古墳』江戸崎町教育委員会 2000年10月
- 19) 中山信名著・栗田寛補『宮崎報恩会版 新編常陸国誌』崋書房 1979年12月
- 20) 瓦吹堅・佐藤正好・黒沢彰哉『学術調査報告書4 茨城県における古代瓦の研究』茨城県立歴史館 1994年3月

参考文献

- 茨城県教育庁文化課編『茨城県道跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月
江戸崎町史編さん委員会『江戸崎町史』江戸崎町 1997年3月



第2図 見松遺跡調査区設定図（「江戸崎都市計画図1/500」から作成）



第3図 児松遺跡遺構全体図

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

児松遺跡は、稲敷市の西部に位置し、標高約20mの沼里川と小野川に挟まれた舌状台地上に立地している。調査面積は2,631㎡で、調査前の現況は畑地、栗林、宅地である。

調査の結果、竪穴住居跡13軒（縄文時代4・弥生時代7・古墳時代2）、墓坑の可能性ある土坑9基（中世・近世）、溝跡4条（中世・近世2、時期不明2）、土坑127基（縄文時代19、時期不明108）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に21箱出土している。主な出土遺物は、縄文土器（深鉢・ミニチュア土器）、弥生土器（壺・甕）、土師器（椀・器台・鉢・壺・甕）、須恵器（坏・甕）、土師質土器（皿・鍋）、陶器（碗・甕）、磁器（碗・香炉カ）、土製品（土器片・土器片円盤・紡錘車・土玉・管状土錘）、石器（石鏃・磨石・敲石・石錘・凹石・砥石）、金属製品（釘・天秤針カ）、銭貨（元祐通寶）、瓦（丸瓦）、ガラス製品（小玉）、貝（ハマグリ・シオフキ・サルボウ類・ヤマトシジミ）などである。

第2節 基本層序

調査区南東部（C4b5区）にテストピットを設定し、地表面から深さ23mまで掘り下げて基本層序（第4図）の確認を行った。土層は8層に分層でき、観察結果は以下のとおりである。

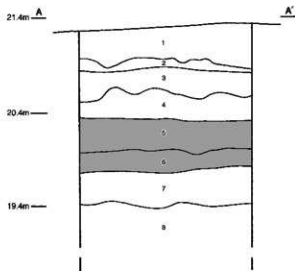
第1層は、暗褐色を呈する耕作土である。ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量に含み、粘性・締まりともに弱い。層厚は30～48cmである。

第2層は、褐色を呈するソフトローム層への漸移層である。焼土粒子・炭化粒子を微量に含み、粘性・締まりともに弱い。層厚は4～20cmである。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。炭化粒子を微量に含み、粘性・締まりともに普通である。層厚は10～34cmである。

第4層は、明褐色を呈するハードローム層で、クラックが発達している。ガラス質の粒子、始良Tn火山灰（AT）を含む層に比定される。黑色粒子・赤色粒子・白色粒子を微量に含み、粘性・締まりともに強い。層厚は14～34cmである。

第5層は、褐色を呈するハードローム層で、上層より色調が暗い。黑色粒子・赤色粒子・白色粒子を微量に含み、粘性・締まりともに強い。層厚は24～38cmである。第2黑色帯の上部に相当すると考えられる。



第4図 基本土層図

第6層は、にぶい褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子・赤色粒子を微量に含み、粘性・締まりともに強い。層厚は14～24cmである。第2黒色帯の下部に相当すると考えられる。

第7層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層で、粘性・締まりともに強い。層厚は28～44cmである。

第8層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。常粘粘土層の漸移層で、上層より粘性・締まりが強い。層厚は未掘のため、不明である。

遺構は、第2層の上面で確認できた。

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡4軒、土坑19基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第9号住居跡（第5・6図）

位置 調査区中央部のB3区、標高21mの台地上に位置している。

規模と形状 長径3.60m、短径3.25mの楕円形で、主軸方向はN-69°-Wである。壁高は6～25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦であり、炉の周囲と壁際を除き硬化している。

炉 中央部の東寄りに付設されている。長径55cm、短径40cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面から15cmの深さに位置する第5～7層上面と考えられるが、赤変硬化は認められない。第5～7層は、掘方への埋土である。

炉土層解説

1 にぶい赤褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子・黒色粒子微量	4 褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・黒色粒子少量、炭化粒子微量
2 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・黒色粒子微量	5 黒褐色	ローム粒子・黒色粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 灰褐色	黒色粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	6 にぶい黄褐色	ロームブロック・黒色粒子少量、焼土粒子微量
		7 黄褐色	ロームブロック中量、黒色粒子微量

ピット 12か所。P1～P12は深さ13～41cmで、規模にややばらつきはあるが、炉を中心に環状に巡っていることから柱穴と考えられる。P4～P7・P9・P12の底面に、径10cmほどの柱のあたりとみられる円形の硬化範囲が認められる。

土器埋設ピット 南壁際の床面を17cm掘り込んで、底部を欠く深鉢が正位で埋設されている。掘方は径30cmほどの円形である。

覆土 20層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

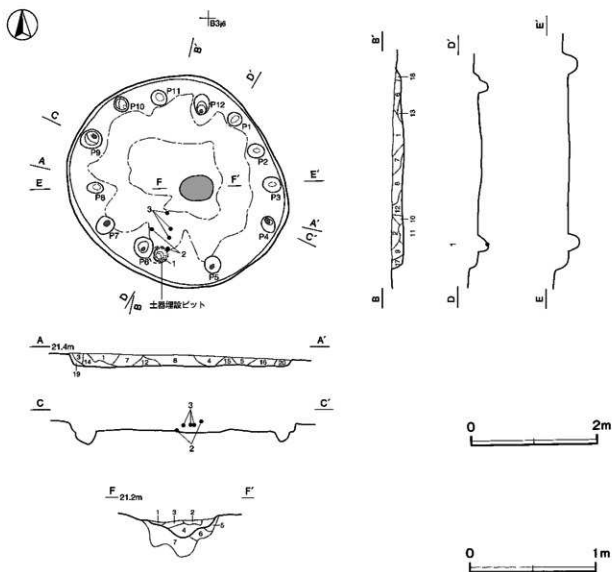
土層解説

1 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 にぶい黄褐色	ロームブロック・黒色粒子少量、焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・黒色粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック・焼土粒子・黒色粒子微量
3 暗褐色	黒色粒子中量、ロームブロック少量	7 黒褐色	ロームブロック・黒色粒子少量
4 暗褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量、ロームブロック・黒色粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック・黒色粒子少量、焼土粒子微量
		9 にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土粒子・黒色粒子少量
		10 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・黒色粒子微量

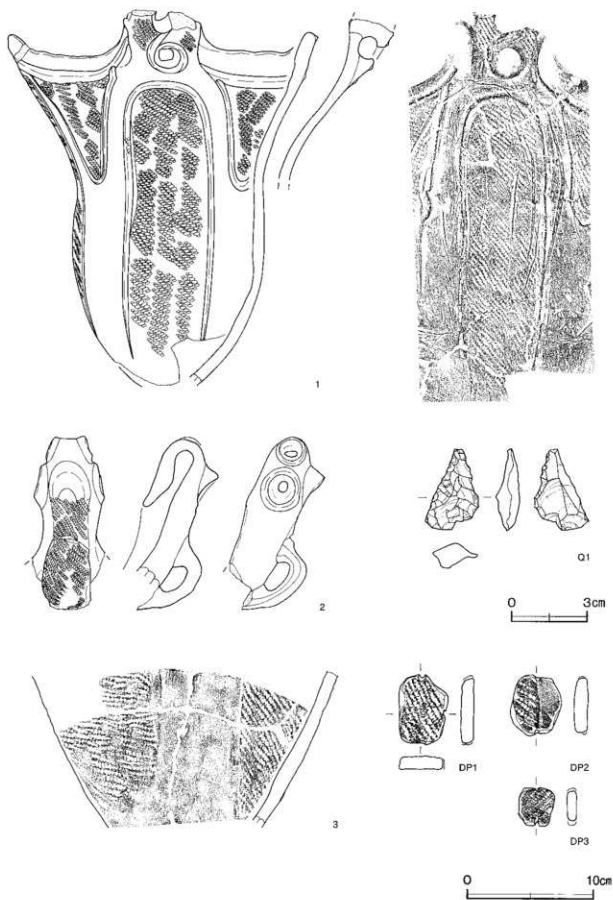
- | | | | |
|-----------|------------------------------|-----------|------------------|
| 11 褐色 | ロームブロック中量、黒色粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 にいり黄褐色 | 黒色粒子少量、ロームブロック微量 |
| 12 にいり黄褐色 | ロームブロック・黒色粒子中量、焼土粒子微量 | 17 暗褐色 | ロームブロック・黒色粒子少量 |
| 13 にいり黄褐色 | ロームブロック少量、黒色粒子微量 | 18 褐色 | ロームブロック・黒色粒子微量 |
| 14 褐色 | ロームブロック中量、黒色粒子少量 | 19 にいり黄褐色 | ロームブロック・黒色粒子少量 |
| 15 暗褐色 | ロームブロック中量、黒色粒子微量 | 20 暗褐色 | ロームブロック・黒色粒子中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 397 点、土製品 3 点（土器片錘）、石器 1 点（石鏃未製品カ）、剥片 2 点のほか、混入した弥生土器片 2 点が出土している。1 の深鉢は、南壁際の床面に埋設された土器である。2 は、南壁寄りの覆土下層と覆土上層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。3 は、中央部の南寄り、覆土上層から散在して出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭（称名寺 1 式期）と考えられる。



第5図 第9号住居跡実測図



第6图 第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表 (第6図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	237	(298)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部直下に微隆部が突出し、側部は微隆部で文様を描出。LRの単節縄文	土器埋設ピット	90% PL12
2	縄文土器	深鉢	-	(137)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	中央で頸状の把手を有する。RLの単節縄文	覆土下層 覆土上層	5% PL13
3	縄文土器	深鉢	-	(120)	-	長石・石英	にない・黄褐色	普通	2本一組の微隆部による整型文。LRの単節縄文	覆土上層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP1	土器片鉢	5.5	4.9	1.0	-	26.7	長石・石英	両端・頸縁にキザミ。周縁部研磨。LRの単節縄文	覆土中	PL13
DP2	土器片鉢	4.8	4.0	1.1	-	19.5	長石・石英・赤色粒子	両端にキザミ。周縁部研磨。LRの単節縄文	覆土中	PL13
DP3	土器片鉢	3.0	2.8	0.8	-	9.0	長石・石英・赤色粒子	両端にキザミ。周縁部研磨。RLの単節縄文	覆土中	PL13

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	石皿*	3.2	2.1	0.9	3.3	黒曜石	未製品。周縁部に二次加工痕を有する	覆土中	

第12号住居跡 (第7・8図)

位置 調査区中央部のC3a2区、標高21mの台地上に位置している。

重複関係 第13号住居跡を掘り込み、第128・141号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため、南北径3.90m、東西径5.10mしか確認できなかった。平面形は、径5mほどの円形と推定できる。壁高は17～19cmで、外傾して立ち上がっている。

床 東側にやや傾斜している。炉の周周と壁際を除き硬化している。

炉 中央部の北寄りに付設されている。土器片で周囲を囲った、径50cmほどの土器片囲炉である。径が90cmほどで、深さ33cmの皿状の掘方を埋土をし、炉を構築している。炉床は床面から15cmの深さに位置する第5層上面で、火を受けて赤変硬化している。第5～11層が掘方への埋土である。

炉土層解説

1	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量	5	暗赤褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量、黒色粒子微量
2	暗褐色	黒色粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6	にない・褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量、黒色粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子少量	7	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、黒色粒子微量
4	にない・褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量、黒色粒子微量	8	褐色	ロームブロック中量、黒色粒子微量
			9	暗褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
			10	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
			11	褐色	ロームブロック中量

ピット 12か所。P1～P12は深さ19～36cmで、規模にややばらつきはあるが、炉を中心に環状に巡っていることから柱穴と考えられる。

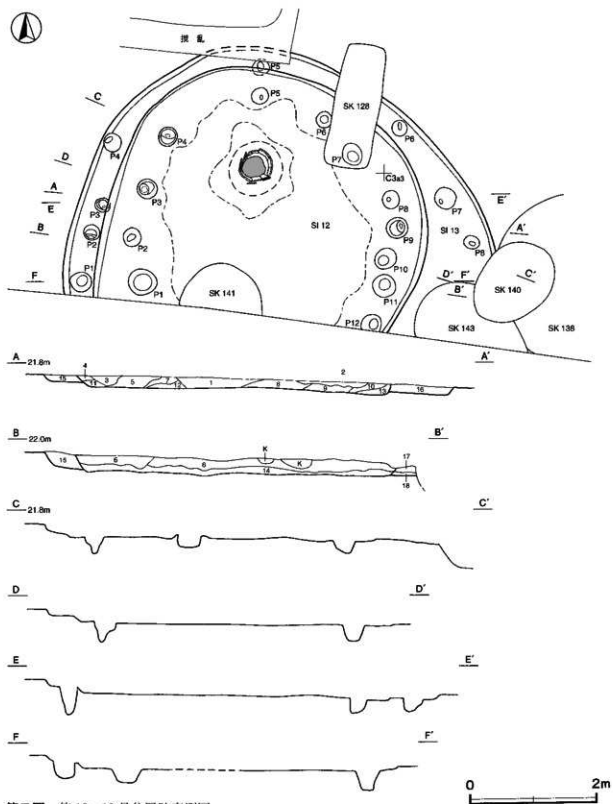
覆土 14層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

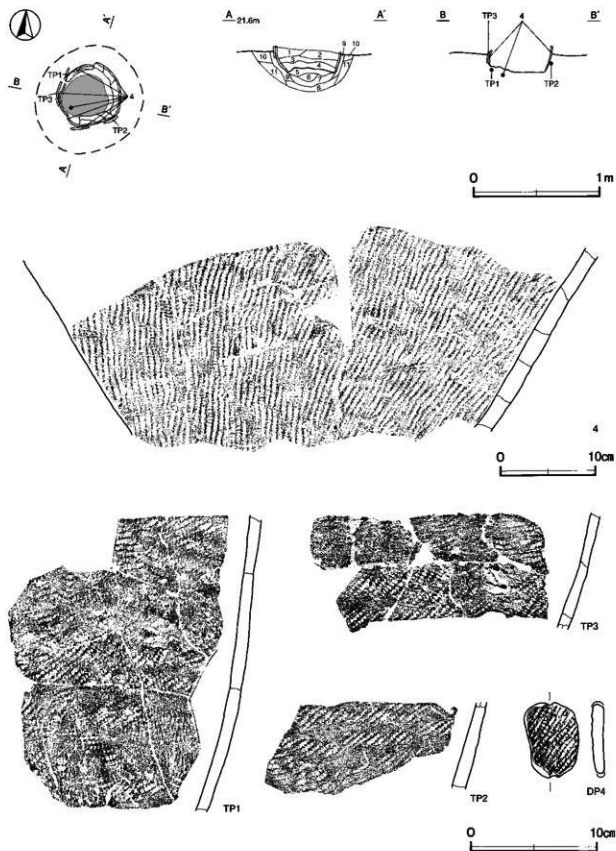
1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量	8	灰黄褐色	ロームブロック・黒色粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・黒色粒子微量	9	にない・黄褐色	ロームブロック・黒色粒子少量
3	黒褐色	ロームブロック・黒色粒子少量、焼土粒子微量	10	黒褐色	ロームブロック・黒色粒子少量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・黒色粒子少量、焼土粒子微量	11	にない・黄褐色	ローム粒子・黒色粒子中量
5	暗褐色	ロームブロック・黒色粒子少量	12	灰黄褐色	ロームブロック・黒色粒子少量
6	褐色	黒色粒子少量、ロームブロック微量	13	にない・黄褐色	ロームブロック中量、黒色粒子少量、炭化粒子微量
7	黒褐色	黒色粒子少量、ロームブロック・炭化物微量	14	にない・黄褐色	ロームブロック・黒色粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片 322 点、土製品 1 点（土器片鏟）のほか、混入した弥生土器片 1 点が出土している。4 の深鉢は、炉囲いに使用された土器片である。TP 1～TP 3 も炉の周囲の床面を掘り込み、立位で出土していることから、炉囲いに使用された土器片と考えられ、胎土や文様構成から同一個体の可能性がある。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期初頭と考えられる。



第7図 第12・13号住居跡実測図



第8图 第12号住居跡・出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表（第8図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
4	縄文土器	深鉢	-	(19.3)	-	長石・石英	橙	普通	RLの単筋縄文	Ⅱ	25%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 1	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	LRの単筋縄文	Ⅱ	
TP 2	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	LRの単筋縄文	Ⅱ	
TP 3	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	LRの単筋縄文	Ⅱ	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考	
DP 4	土器片	60	4.4	1.0	-	298	長石・石英・赤色粒子	両端にキザミ 周縁部研磨	RLの単筋縄文	Ⅱ土中	PL13

第13号住居跡（第7・9図）

位置 調査区中央部のC 3a2区、標高21mの台地上に位置している。

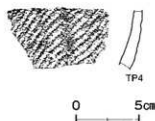
重複関係 第12号住居及び第128・140・141・143号土坑に掘り込まれている。第138号土坑と重複しているが、重複する部分が他の土坑に掘り込まれているため、新旧関係は不明である。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため、南北径4.20m、東西径6.63mしか確認できなかった。平面形は、主軸方向がN-60°-Eの楕円形と推定できる。壁高は10～12cmで、外傾して立ち上がっている。

床 確認できた部分は平坦である。硬化した範囲は認められなかった。

ピット 8か所。P 1～P 8は深さ23～44cmで、規模にややばらつきはあるが、壁際を環状に巡っていることから柱穴と考えられる。

覆土 4層に分層できる。重複によって全容は不明であるが、各層に含有物が多く含まれていることから、埋め戻されていると考えられる。



第9図 第13号住居跡
出土遺物実測図

土層解説

- 15 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、黒色粒子微量
- 16 暗褐色 黒色粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 17 褐色 黒色粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 18 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、黒色粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片11点が出土している。TP 4は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から中期後葉～後期初頭と考えられる。

第13号住居跡出土遺物観察表（第9図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 4	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	RLの単筋縄文	Ⅱ土中	

第14号住居跡（第10図）

位置 調査区中央部のC 3a4区、標高21mの台地上に位置している。

重複関係 第139号土坑に掘り込まれている。第142号土坑を床下から確認した。

規模と形状 径4mほどの円形である。壁高は20～28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦である。硬化した範囲は認められなかった。

ピット 7か所。P1～P7は深さ17～31cmで、規模にややばらつきはあるが、壁際を環状に巡っていることから柱穴と考えられる。

覆土 10層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

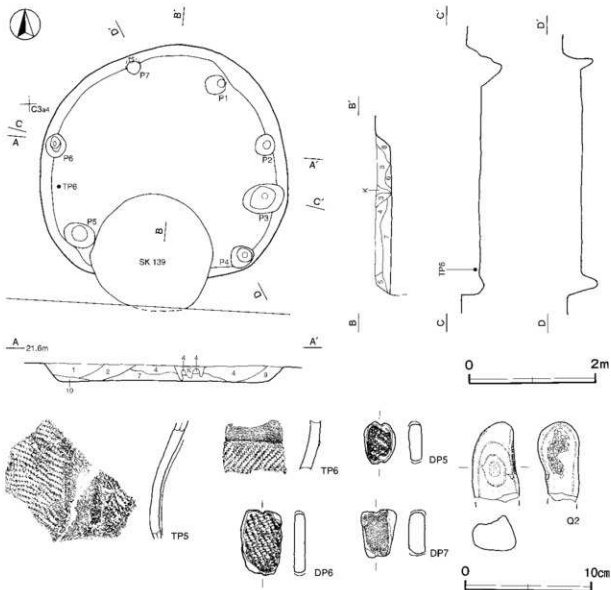
土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|-----------------------|----|--------|-------------------------|
| 1 | にふい黄褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量 | 6 | 褐色 | ロームブロック中量、黒色粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 | 灰黄褐色 | ロームブロック少量、黒色粒子微量 | 7 | 褐色 | ロームブロック中量、黒色粒子微量 |
| 3 | にふい黄褐色 | ロームブロック・黒色粒子少量 | 8 | 灰黄褐色 | 黒色粒子少量、ロームブロック微量 |
| 4 | 褐色 | ロームブロック・黒色粒子中量 | 9 | にふい黄褐色 | 黒色粒子中量、ロームブロック少量 |
| 5 | 褐色 | ロームブロック・黒色粒子少量、炭化粒子微量 | 10 | 褐色 | ロームブロック多量、黒色粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片267点、土製品4点（土器片錘）、石器3点（敲石）、剥片2点が出土している。

土器は細片が多く、散在して出土している。TP6は、西壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器と重複関係から中期後葉～後期初頭と考えられる。



第10図 第14号住居跡・出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表(第10図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 5	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	微稜帯で文様を描出 L.Rの単節縄文	覆土中	
TP 6	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	微稜帯で文様を描出 L.Rの単節縄文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 5	土器片鉢	34	25	11	-	97	長石	両端にキザミ 周縁部研磨 L.Rの単節縄文	覆土中	PL13
DP 6	土器片鉢	52	33	0.9	-	186	長石・石英・雲母	両端にキザミ 周縁部研磨 L.Rの単節縄文	覆土中	PL13
DP 7	土器片鉢	38	28	1.3	-	143	長石・石英	両端にキザミ 周縁部研磨 無文	覆土中	PL13

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 2	凝石	(64)	38	34	(104)	砂岩	表面に風状の凹み 側面に敲打痕 被熱痕	覆土中	PL16

表2 縄文時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長径×短径(m)	壁高 (cm)	床面 構造	ピット			炉	竪土	主な出土遺物	時期	備考	
							1号穴	2号穴	不明						
9	B 3j5	N-69°-W	楕円形	3.60×3.25	6-25	平皿	-	-	12	-	地床印	人為	縄文土器・土器片鉢・石鏝本製品	後期初頭	
12	C 3a2	-	[円形]	(3.90×5.10)	17-19	傾斜	-	-	12	-	土器片陶印	人為	縄文土器・土器片鉢	中期後葉-後期初頭	SI13→本層 →SK128・141
13	C 3a2	N-60°-E	[楕円形]	(4.20×6.63)	10-12	平皿	-	-	8	-	-	人為	縄文土器	中期後葉-後期初頭	4層→SI12 SK128-140・141・143 SK128上層(不明)
14	C 3a4	-	円形	4.0	20-28	平皿	-	-	7	-	-	人為	縄文土器・土器片鉢・凝石	中期後葉-後期初頭	SK112→本層 →SK129

(2) 土坑

第63号土坑(第11図)

位置 調査区中央部のB 3e9区、標高21mの台地上に位置している。

重複関係 第4号住居に掘り込まれている。

規模と形状 上部を第4号住居に掘り込まれているため、確認できたのは径1.5mほどの円形である。深さは70cmで、底面は平坦である。壁は北壁の一部が内傾している以外は、外傾して立ち上がっている。

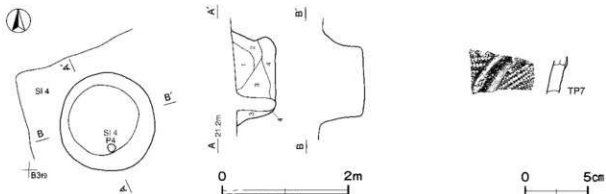
覆土 4層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 濃い黄褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片8点が出土している。TP 7は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期初頭と考えられる。



第11図 第63号土坑・出土遺物実測図

第63号土坑出土遺物観察表（第11図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP7	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒	隆帯文 RLの単純縄文	覆土上層	

第64号土坑（第12図）

位置 調査区中央部のB3f9区、標高21mの台地上に位置している。

重複関係 第4号住居に掘り込まれている。

規模と形状 上部を第4号住居に掘り込まれているため、確認できたのは径1.3mほどの円形である。深さは72cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は直立している。

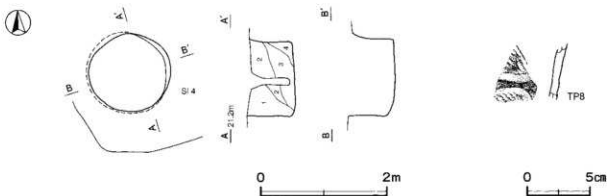
覆土 4層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|-----------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 薄い黄褐色 | ロームブロック中量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片2点が出土している。TP8は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第12図 第64号土坑・出土遺物実測図

第64号土坑出土遺物観察表（第12図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP8	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐色	沈線文 RLの単純縄文	覆土中	

第67号土坑（第13図）

位置 調査区西部のB2f9区、標高22mの台地上に位置している。

規模と形状 長径1.90m、短径1.66mの楕円形で、長径方向はN-19°-Wである。深さは123cmで、底面は平坦であり、壁は直立している。

底面 中央部に、硬化した範囲が認められる。

覆土 5層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

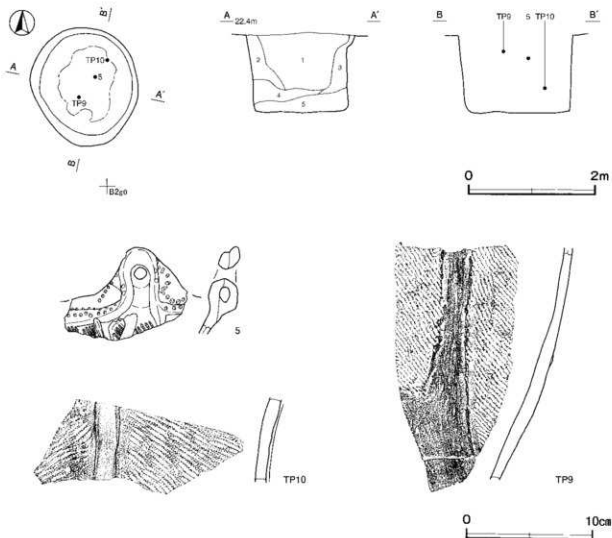
土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量（第3層よりやや明るい色調） |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 5 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片58点が出土している。TP10は北東壁寄りの覆土下層、5・TP9は中央部の覆土

上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭（称名寺Ⅰ式期）と考えられる。



第13図 第67号土坑・出土遺物実測図

第67号土坑出土遺物観察表（第13図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
5	陶文土器	深鉢	-	(69)	-	長石・石英・赤色粒子	明褐色	普通	円孔を有する把手 口唇部に連続する刺状文 LRの単筋縄文	覆土上層	5% PL13
TP9	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母			周	褐色	2本一組の縦筋帯による懸垂文 LRの単筋縄文		覆土上層	
TP10	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子			におい黄褐色	褐色	2本一組の縦筋帯によって文様を描出 LRの単筋縄文		覆土下層	

第68号土坑（第14図）

位置 調査区西部のB2e9区、標高22mの台地上に位置している。

重複関係 第72号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部を第72号土坑に掘り込まれているため、東西径は1.31mが確認されただけで、南北径は1.53mである。平面形は、径1.5mほどの円形と推定できる。深さは68cmで、底面は平坦であり、壁は直立

している。

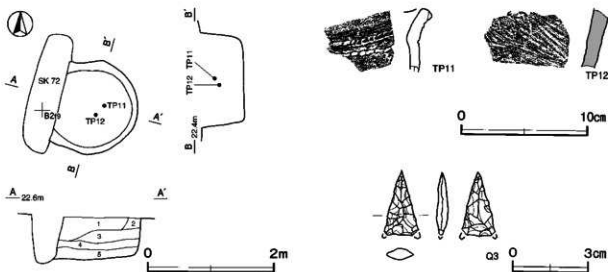
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており、不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------|---------|-----------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗 褐 色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片22点、石器2点（石鏃、磨石）が出土している。TP11・TP12は、中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期と考えられる。



第14図 第68号土坑・出土遺物実測図

第68号土坑出土遺物観察表（第14図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	口唇部直下に復元の結節沈澱が沿う陰帯が通る	覆土中層	PL13
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・磁鉄	にぶい赤褐	Lの無節縄文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	石鏃	(25)	(1.4)	0.5	(1.2)	瑪瑙	両面押し削磨 平差無葉鏃	覆土中	PL16

第69号土坑（第15図）

位置 調査区西部のB2d7区、標高22mの台地上に位置している。

重複関係 第70・71号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部を重複する遺構に掘り込まれているため、南北径は1.52mが確認されただけで、東西径は1.64mである。平面形は、長径方向がN-7°-Wの楕円形と推定できる。深さは15cmで、底面は皿状であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており、不均質な堆積状況から埋め戻されている。

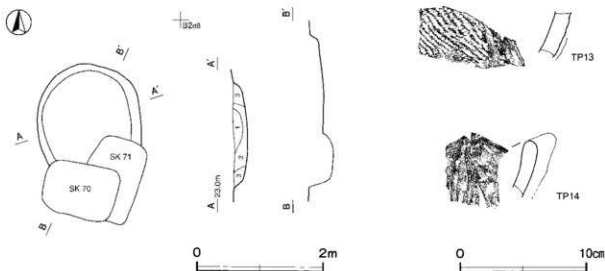
土層解説

- | | | | |
|----------|------------------|---------|----------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量、黒色粒子微量 | 3 黒 褐 色 | ロームブロック・黒色粒子少量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック中量、黒色粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片9点が出土している。土器は細片が多く、散在して出土している。TP13・TP14

は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第15図 第69号土坑・出土遺物実測図

第69号土坑出土遺物観察表(第15図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	隆帯文 RLの半輪縄文	覆土中	
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	隆帯を或頂部より垂下	覆土中	

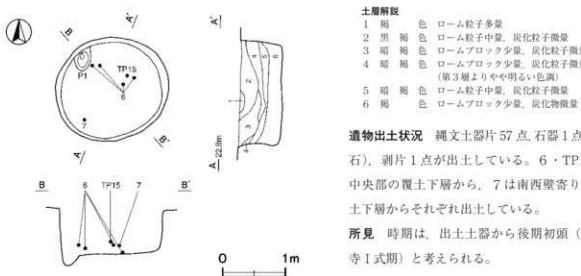
第73号土坑(第16・17図)

位置 調査区西部のB 2c9区、標高22mの台地上に位置している。

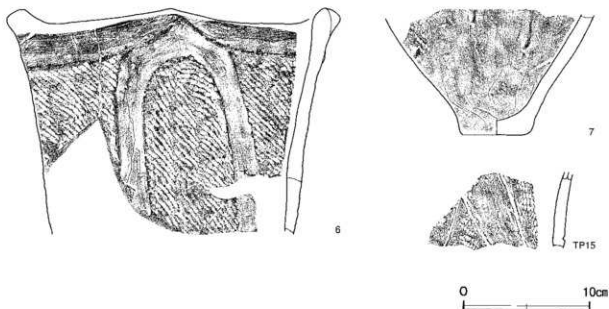
規模と形状 長径1.83m、短径1.65mの楕円形で、長径方向はN-51°-Eである。深さは73cmで、底面は平坦であり、壁は直立している。

ピット 北西壁際に位置している。深さは20cmであり、性格は不明である。

覆土 6層に分層できる。各層にローム土が含まれているが、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。



第16図 第73号土坑実測図



第17図 第73号土坑出土遺物実測図

第73号土坑出土遺物観察表 (第17図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
6	縄文土器	深鉢	[240]	(178)	-	長石・石英・赤色粒子	にふい堀	普通	口唇部直下に凹線帯がある。逆U字状の凹線帯による懸垂文。凹線多量によるLRの単筋縄文	覆土下層	30% PL12
7	縄文土器	深鉢	-	(94)	5.5	長石・石英・赤色粒子	にふい堀	普通	凹線帯による懸垂文。LRの単筋縄文	覆土下層	20%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	黒褐	沈線文 LRの単筋縄文	覆土下層	

第98号土坑 (第18図)

位置 調査区西部のB 2h9区、標高22mの台地上に位置している。

規模と形状 開口部が径2.2m、底面が径2.4mほどの円形である。深さは102cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は内傾して立ち上がっている。

底面 中央部から南東壁際にかけて、硬化した範囲が認められる。

覆土 12層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

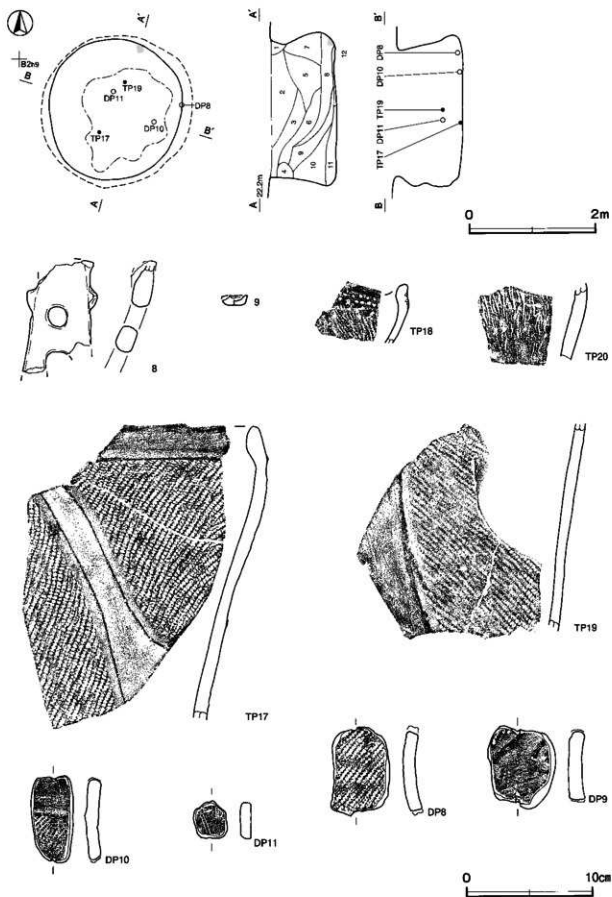
土層解説

1 黄褐色	ロームブロック多量	7 暗褐色	ローム粒子少量、黒色粒子微量
2 褐色	ロームブロック多量、黒色粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・黒色粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・黒色粒子微量	9 にふい黄褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
4 褐色	ロームブロック中量	10 黒褐色	ロームブロック少量、黒色粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック中量、黒色粒子少量	11 暗褐色	ロームブロック中量、黒色粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量	12 褐色	ロームブロック中量、黒色粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片457点、土製品5点(土器片錘4・土器片円盤1)、石器1点(磨石)が出土している。

TP17は中央部の底面、DP 8・DP10は東壁寄りの底面に近い覆土下層、TP19・DP11は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。北壁際の底面から、焼土塊が確認されている。

所見 時期は、出土土器から後期初頭(称名寺1式期)と考えられる。



第18图 第98号土坑·出土遺物実測図

第98号土坑出土遺物観察表（第18図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
8	縄文土器	深鉢	-	(89)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	円孔を有する把手	覆土中	5% PL13
9	縄文土器	コハチヤ	20	08	12	長石・石英	明赤褐	普通	無文 円唇部にキザミ	覆土中	80% PL12

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	円唇部直下に微隆帯が走る 2本一組の微隆帯によって文様を構成 RLの単筋縄文	底面	PL12
TP18	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	円唇部に連続刺突文 RLの単筋縄文	覆土中	
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	微隆帯による懸垂文 LRの単筋縄文	覆土下層	
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	無文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔徑	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 8	土器片 鉢	71	4.7	1.6	-	447	長石・石英・赤色粒子	両端にキザミ 周縁部研磨 LRの単筋縄文	覆土下層	PL13
DP 9	土器片 鉢	65	5.4	1.3	-	485	長石・石英	両端にキザミ 周縁部研磨 微隆帯によって文様を構成 LRの単筋縄文	覆土中	PL13
DP10	土器片 鉢	69	3.3	1.3	-	304	長石・石英・赤色粒子	両端にキザミ 周縁部研磨 微隆帯によって文様を構成 LRの単筋縄文	覆土下層	PL13
DP11	土器片 円盤	29	2.7	0.9	-	80	長石・石英・赤色粒子	周縁部研磨 沈没文	覆土下層	

第114号土坑（第19図）

位置 調査区中央部のB3f2区、標高21mの台地上に位置している。

重複関係 第115号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南東部を第115号土坑に掘り込まれているため、東西径は1.18mが確認されただけで、南北径は1.35mである。平面形は、長径方向がN-34°-Eの楕円形と推定できる。深さは56cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

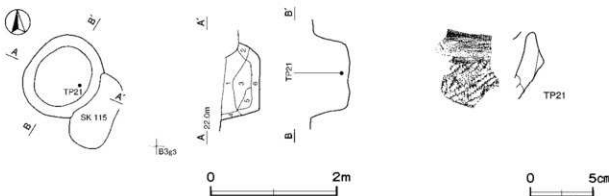
覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、黒色粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量、黒色粒子微量（第1層よりやや暗い色調） |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量、黒色粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・黒色粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・黒色粒子微量 | |
| 4 褐色 ロームブロック多量、黒色粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片8点が出土している。TP21は、東壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期初頭と考えられる。



第19図 第114号土坑・出土遺物実測図

第114号土坑出土遺物観察表 (第19図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい明	口唇部直下に微隆帯が巡る LRの単筋縄文	覆土下層	

第129号土坑 (第20図)

位置 調査区中央部のB3j2区、標高21mの台地上に位置している。

重複関係 第130号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西部を第130号土坑に掘り込まれているため、東西径は1.25m、南北径は0.76mしか確認できなかった。平面形は、長径方向がN-85°-Wの楕円形と推定できる。深さは21cmで、底面は平坦であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

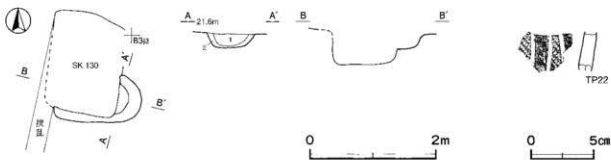
覆土 2層に分層できる。重複のため全容は不明であるが、各層にロームブロックが含まれており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・黒色粒子微量 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片2点が出土している。TP22は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第20図 第129号土坑・出土遺物実測図

第129号土坑出土遺物観察表 (第20図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英	暗	沈線による型垂文間を磨り消す LRの単筋縄文	覆土中	

第133号土坑 (第21図)

位置 調査区中央部のB3i2区、標高21mの台地上に位置している。

重複関係 第134号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径1.3mほどの円形である。深さは35cmで、底面は皿状であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 7層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

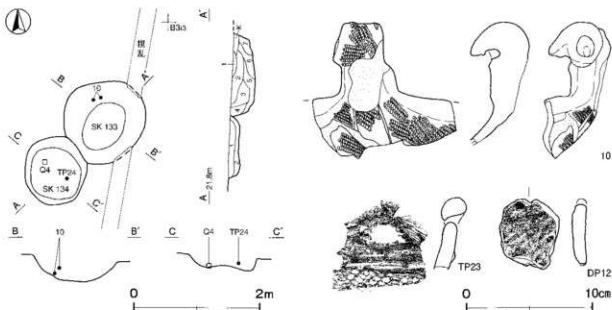
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 5 黒褐色 ロームブロック中量
 2 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 6 暗褐色 ロームブロック中量
 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 7 褐色 ロームブロック中量
 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片34点、土製品1点(土器片鏟)が出土している。10は、北壁際の覆土下層と覆土

中層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から後期初頭（称名寺Ⅰ式期）と考えられる。



第21図 第133・134号土坑、第133号土坑出土遺物実測図

第133号土坑出土遺物観察表（第21図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
10	縄文土器	深鉢	-	(10.8)	-	長石・石英	橙	普通	沈澱による壘垂文 凹の単筋縄文	覆土下層 覆土中層	5% PL13

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	円孔を有する把手 口唇部直下に微隆帯が高る LRの単筋縄文	覆土中	PL13

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP12	土器片断	5.5	4.7	1.2	-	31.8	長石・石英	両端にキザミ 両縁部研削 微隆帯によって文様を露出	覆土中	

第134号土坑（第21・22図）

位置 調査区中央部のB3i2区、標高21mの台地上に位置している。

重複関係 第133号土坑を掘り込んでいる。

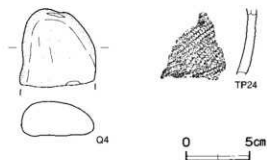
規模と形状 径1.0mほどの円形である。深さは20cmで、底面は若干凸凹がある。壁は、南東壁の一部が直立している以外は、外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片20点、石器1点（磨石）が出土している。Q4は中央部の覆土下層、TP24は中央部の覆土中層から、それぞれ出土している。



第22図 第134号土坑出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器と重複関係から後期初頭（称名寺I式期）と考えられる。

第134号土坑出土遺物観察表（第22図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐色	RLの半部縄文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	磨石	(62)	(60)	(27)	(144)	シルト岩	表面に使用痕	覆土下層	

第135号土坑（第23図）

位置 調査区西部のB2h0区、標高21mの台地上に位置している。

重複関係 第11号住居に掘り込まれている。

規模と形状 上部を第11号住居に掘り込まれているため、確認できたのは径2.1mほどの円形である。深さは88cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ全体に、硬化した範囲が認められる。

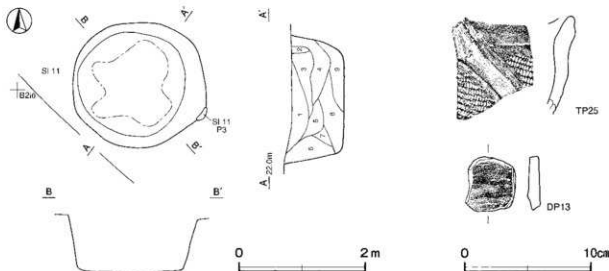
覆土 9層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|----------|------------------|
| 1 黒褐色 | 黒色粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、黒色粒子少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、黒色粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・黒色粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 黒色粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 にぶい青褐色 | ロームブロック・黒色粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・黒色粒子少量 | 8 にぶい青褐色 | ロームブロック多量、黒色粒子少量 |
| | | 9 にぶい青褐色 | ロームブロック中量、黒色粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片94点、土製品4点（土器片錘1・土器片円盤3）が出土している。TP25は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭（称名寺I式期）と考えられる。



第23図 第135号土坑・出土遺物実測図

第135号土坑出土遺物観察表 (第23図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐色	口唇部直下に微隆帯が走る。2本一組の微隆帯による懸垂文。LRの単線縄文。	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP13	土器片 可動	4.3	(3.9)	1.0	-	(19.2)	長石・石英	短線部研磨。微隆帯で文様を描出。LRの単線縄文。	覆土中	

第136号土坑 (第24図)

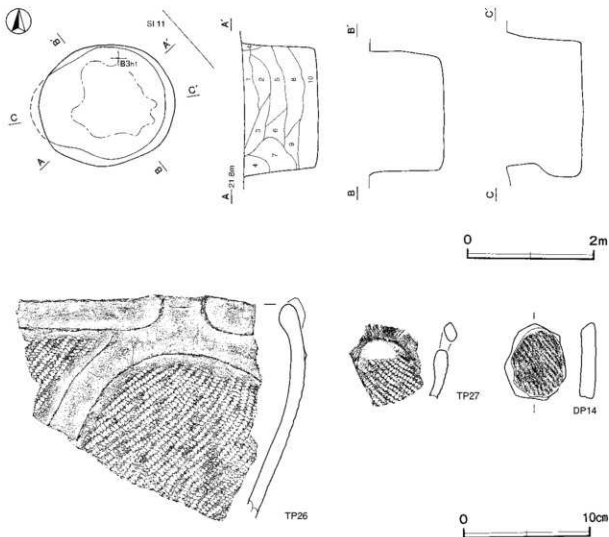
位置 調査区西部のB 2h0区、標高21 mの台地上に位置している。

重複関係 第11号住居に掘り込まれている。

規模と形状 上部を第11号住居に掘り込まれているため、確認できたのは長径2.14 m、短径1.92 mである。平面形は、長径方向がN-69°-Eの楕円形である。深さは119 cmで、底面は平坦である。壁は西壁の一部が内傾している以外は、外傾して立ち上がっている。

底面 中央部に、硬化した範囲が認められる。

覆土 10層に分層できる。各層にローム土が含まれており、不均質な堆積状況から埋め戻されている。



第24図 第136号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1	にぶ・黄褐色	ローム粒子少量、黒色粒子微量	6	黒褐色	ロームブロック・黒色粒子微量
2	暗褐色	黒色粒子少量、ロームブロック微量	7	褐色	ロームブロック・黒色粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子・黒色粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック中量、黒色粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐色	ロームブロック中量、黒色粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子・黒色粒子少量
5	黒褐色	ロームブロック・黒色粒子少量	10	褐色	ロームブロック多量、黒色粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 32 点、土製品 1 点（土器片円盤）が出土している。TP26・TP27 は、覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭（称名寺 I 式期）と考えられる。

第 136 号土坑出土遺物観察表（第 24 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗赤褐色	口唇部直下に微隆帯が走る。面隆帯による逆U字状の彫造文。RLの単節縄文	覆土下層	PL12
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	円孔を有する把手。LRの単節縄文	覆土下層	PL13

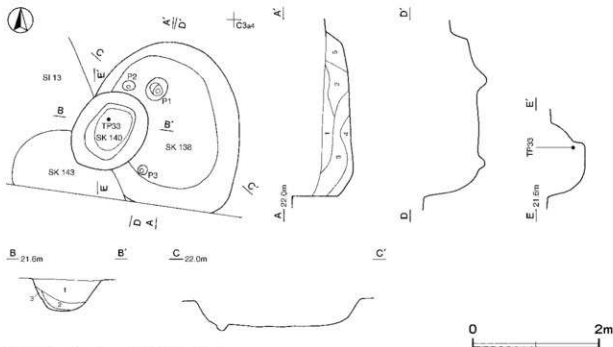
番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP14	土器片 円盤	61	4.8	1.2	-	33.9	長石・石英 赤色粒子	規線部研磨。RLの単節縄文	覆土中	

第 138 号土坑（第 25・26 図）

位置 調査区中央部の C 3a3 区、標高 21 m の台地上に位置している。

重複関係 第 140・143 号土坑に掘り込まれている。第 13 号住居跡と重複しているが、重複する部分があるため、新旧関係は不明である。

規模と形状 重複する遺構があり、南部が調査区域外に延びているため、確認できたのは南北径 2.60 m、東西径 2.12 m である。平面形は、長径方向が N-7°-W の楕円形と推定できる。深さは 48 cm で、底面は南側にやや傾斜している。壁は外傾して立ち上がっている。



第 25 図 第 138・140 号土坑実測図

ピット 3か所。P1は中央部のやや北寄りに、P2・P3は西壁際に位置している。深さは、P1は16cm、P2は11cm、P3は10cmであり、性格は不明である。

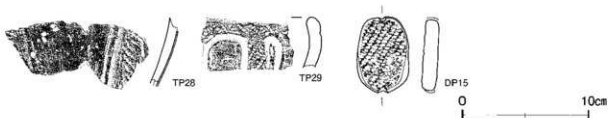
覆土 5層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|------|------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・黒色粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量、黒色粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量、焼土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック・黒色粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、黒色粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片105点、土製品1点(土器片錘)が出土している。TP28・DP15は、覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期初頭と考えられる。



第26図 第138号土坑出土遺物実測図

第138号土坑出土遺物観察表(第26図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐色	2本一組の微隆帯による懸垂文 LRの単筋縄文	覆土下層	
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	沈線による逆U字状の懸垂文 RLの単筋縄文	覆土中	PL13

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP15	土器片錘	60	4.2	1.3	-	37.9	長石・石英	両端にキザミ 周縁部研磨 RLの単筋縄文	覆土下層	PL13

第139号土坑(第27図)

位置 調査区中央部のC3a4区、標高21mの台地上に位置している。

重複関係 第14号住居跡及び第142号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.9mほどの円形である。深さは137cmで、底面は平坦である。壁は、北壁の一部が内傾している以外は、直立している。

覆土 11層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。覆土中層の第6層から焼土塊が確認されている。

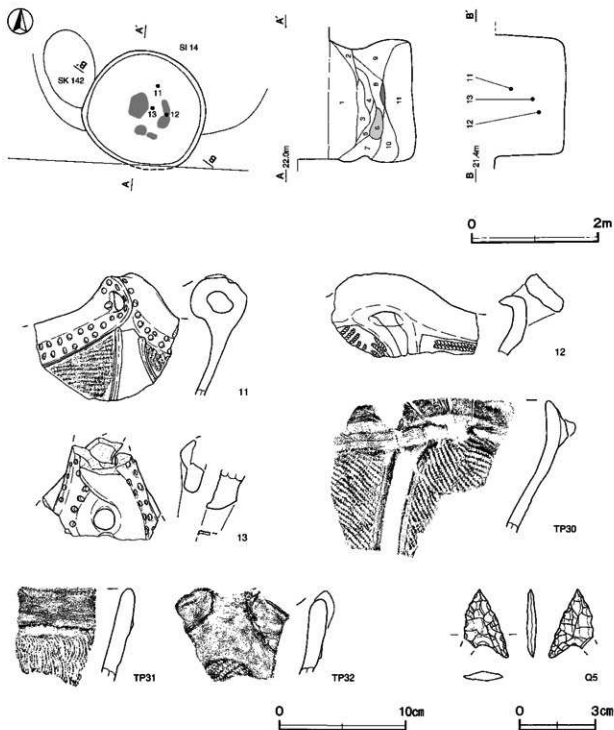
土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|--------|----------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量(掃まり割い) |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片263点、石器1点(石鏃)、剥片2点のほか、混入した不明鉄製品が出土している。12・13は、中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。また、覆土中層から投棄された貝(ハマグリ・シ

オフキ・サルボウ類)が出土しており、ハマグリは、殻長が3～4cmのものが主体である(表3)。

所見 遺物出土状況から、廃絶後に覆土下層まで埋め戻された後、貝や土器が放棄されたことが想定される。覆土中層から確認された焼土塊は、覆土中層まで埋没した段階で、2次的な利用で火を炊いたことが考えられるが、明確な痕跡は確認されていない。時期は、出土土器から後期初頭(称名寺I式期)と考えられる。



第27図 第139号土坑・出土遺物実測図

第139号土坑出土遺物観察表 (第27図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
11	陶文土器	深鉢	-	(9.5)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口唇部直下に連続列突文 RLの単筋縄文	覆土上層	5% PL13
12	陶文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	RLの単筋縄文	覆土中層	5% PL13
13	陶文土器	深鉢	-	(8.0)	-	長石・石英赤色粒子	にぶい橙	普通	円孔を有する把手 連続列突文	覆土中層	5% PL13

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP20	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	口唇部直下に微陰帯が広がる 微陰帯による2本一組の微陰帯による器突文 LRの単筋縄文	覆土下層	
TP31	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	口唇部直下に微陰帯が広がる キザミ目列	覆土下層	PL13
TP32	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	微陰帯で文様を描出 RLの単筋縄文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q5	石鏝	27	(1.8)	0.4	(1.2)	結實頁岩	両面押圧潤滑 円形無彫	覆土中	PL16

表3 第139号土坑出土具種別集計表

器種	長	口径						小計(個)	総合計(個)	
		20cm~ 2.5cm未満	25cm~ 3.0cm未満	30cm~ 3.5cm未満	35cm~ 4.0cm未満	40cm~ 4.5cm未満	45cm~ 5.0cm未満			50cm~ 5.5cm未満
ハマグリ	右殻	1	2	6	7	4	1	1	22	71
	左殻	2	4	10	5	1		3	25	99
シオフキ	右殻	1			1		1		3	10
	左殻									5
サルボウ類	-							(1)	(1)	

※殻頂部が残っているものを集計の対象(総合計)とし、さらに殻長が計測できるものは、大きさ別に集計(小計)した。サルボウ類は、殻頂部が残存していない1個体が検出されている。

第140号土坑 (第25・28図)

位置 調査区中央部のC3a3区、標高21mの台地上に位置している。

重複関係 第13号住居跡及び第138・143号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.38m、短径1.06mの楕円形で、長径方向はN-41°-Eである。深さは45cmで、底面は皿状であり、壁は外傾して立ち上がっている。

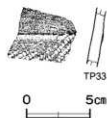
覆土 3層に分層できる。周囲からの土の流入を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 黄褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片2点が出土している。TP33は、中央部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器と重複関係から後期初頭(称名寺I式期)と考えられる。



第28図 第140号土坑出土遺物実測図

第140号土坑出土遺物観察表 (第28図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP33	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明褐	微陰帯で文様を描出 LRの単筋縄文	覆土中層	

第 141 号土坑 (第 29 図)

位置 調査区中央部の C 3a2 区、標高 21 m の台地上に位置している。

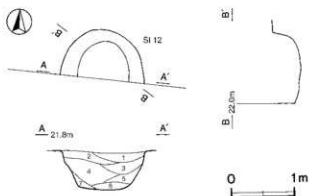
重複関係 第 12・13 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため、南北径は 0.78 m が確認されただけで、東西径は 1.33 m である。平面形は、径 1.3 m ほどの円形又は楕円形と推定できる。深さは 58 cm で、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 7 層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------|
| 1 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量 | 5 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量 | 6 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| | 7 褐色 ロームブロック中量 |



遺物出土状況 縄文土器片 3 点が覆土中から出土している。いずれも細片で、図示することができない。

所見 時期は、出土土器と重複関係から中期後葉～後期初頭と考えられる。

第 29 図 第 141 号土坑実測図

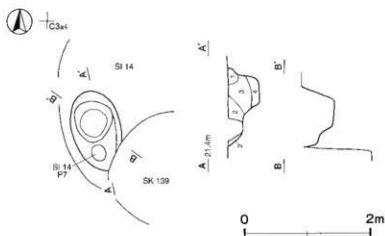
第 142 号土坑 (第 30 図)

位置 調査区中央部の C 3a4 区、標高 21 m の台地上に位置している。

重複関係 第 14 号住居及び第 139 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 重複する遺構に掘り込まれているため、確認できたのは長径 1.27 m、短径 0.79 m である。平面形は、長径方向が N - 20° - W の楕円形である。深さは 45 cm で、底面は平坦であり、中に段を有している。

覆土 4 層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。



土層解説

- | |
|-------------------|
| 1 濃い黄褐色 ロームブロック微量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗 褐色 ロームブロック少量 |
| 4 黒 褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 4 点が出土している。いずれも細片で、図示することができない。

所見 時期は、出土土器と重複関係から中期後葉～後期初頭と考えられる。

第 30 図 第 142 号土坑実測図

第 143 号土坑 (第 31 図)

位置 調査区中央部の C 3a3 区、標高 21 m の台地上に位置している。

重複関係 第 13 号住居跡及び第 138 号土坑を掘り込み、第 140 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 重複する遺構があり、南部が調査区域外に延びているため、確認できたのは南北径 1.12 m、東西径 1.22 m のみである。平面形は、長径方向が N - 34° - W の楕円形と推定できる。深さは 95 cm で、底面は平坦であり、中位に段を有している。

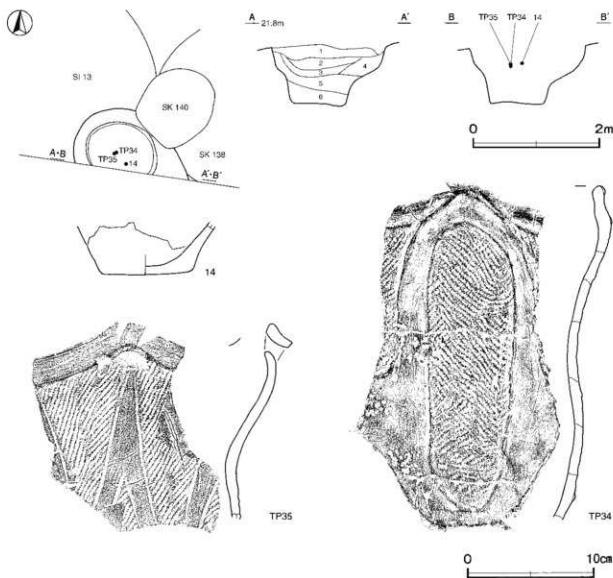
覆土 6 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており、不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 51 点、土製品 1 点 (土器片錘) が出土している。14・TP34・TP35 は、中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭 (称名寺 I 式期) と考えられる。



第 31 図 第 143 号土坑・出土遺物実測図

第143号土坑出土遺物観察表 (第31図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
14	縄文土器	深鉢	-	(42)	70	長石・石英	にぶい濁	普通	無文	覆土中層	10%
番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか			出土位置	備考		
TP34	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい濁	口内面裏面に微隆帯がある。2本一組の微隆帯による逆U字状の懸垂文。1及の単組縄文。			覆土中層	PL12		
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英	濁	底頂部に円孔を有する。2本一組の沈瀬による懸垂文。RLの単組縄文。			覆土中層	PL12		

表4 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径方向	規 模		壁 面	底 面	ピット	覆土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)						
63	B 3c9	(円形)	-	(1.5)	(70)	内縁外縁	平坦	-	人為	縄文土器	本跡→SI 4
64	B 3c9	(円形)	-	(1.3)	(72)	直立	平坦	-	人為	縄文土器	本跡→SI 4
67	B 2c9	楕円形	N-19-W	1.90×1.66	123	直立	平坦	-	人為	縄文土器	
68	B 2c9	[円形]	-	1.53×(1.31)	68	直立	平坦	-	人為	縄文土器・石環・磨石	本跡→SK72
69	B 2d7	[楕円形]	N-7'-W	(1.52)×1.64	15	緩斜	圓状	-	人為	縄文土器	本跡→SK70・71
73	B 2c9	楕円形	N-51'-E	1.83×1.65	73	直立	平坦	1	自然	縄文土器・磨石	
98	B 2c9	円形	-	2.2 2.4	102	内縁	平坦	-	人為	縄文土器・土器片・土器片内縁・磨石	
114	B 3c2	[楕円形]	N-34'-E	1.35×(1.18)	56	外縁	平坦	-	人為	縄文土器	本跡→SK115
129	B 3j2	[楕円形]	N-85'-W	(1.25×0.76)	21	緩斜	平坦	-	人為	縄文土器	本跡→SK130
133	B 3j2	円形	-	1.3	35	緩斜	圓状	-	人為	縄文土器・土器片	本跡→SK134
134	B 3j2	円形	-	1.0	20	直立外縁	凸凹	-	自然	縄文土器	SK133→本跡
135	B 2b0	(円形)	-	(2.1)	(88)	外縁	平坦	-	人為	縄文土器・土器片・土器片内縁	本跡→SI11
136	B 2b0	(楕円形)	N-69'-E	(2.14×1.92)	(119)	内縁外縁	平坦	-	人為	縄文土器・土器片内縁	本跡→SI11
138	C 3a3	[楕円形]	N-7'-W	(2.60×2.12)	48	外縁	傾斜	3	人為	縄文土器・土器片	本跡→SK140・143 SI13との相互不明
139	C 3a4	円形	-	1.9	137	内縁直立	平坦	-	人為	縄文土器・石環・ハマグリ・シオフキ	SI14, SK142→本跡
140	C 3a3	楕円形	N-41'-E	1.38×1.06	45	外縁	圓状	-	自然	縄文土器	SI13, SK138・143→本跡
141	C 3a2	[円形] [楕円形]	-	(0.78)×1.33	58	外縁	平坦	-	人為	縄文土器	SI12・13→本跡
142	C 3a4	[楕円形]	N-20'-W	(1.27×0.79)	(45)	中位に段	平坦	-	人為	縄文土器	本跡→SI14, SK139
143	C 3a3	[楕円形]	N-34'-W	(1.22×1.12)	95	中位に段	平坦	-	人為	縄文土器・土器片	SI13, SK138→本跡 →SK140

2 弥生時代の遺構と遺物

当該時代の遺構は、堅穴住居跡7軒を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

堅穴住居跡

第3号住居跡 (第32・33図)

位置 調査区中央部のB 3h9区、標高21mの台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.54m、短軸3.50mの隅丸方形で、主軸方向はN-21'-Wである。壁高は11～15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、炉の周囲を除いて壁際が硬化している。覆土中層から床面にかけて、中央部から焼土、壁際から炭化材を確認した。

炉 中央部の東寄りに付設されている。径50cmほどの円形を呈する床炉である。炉床は、床面から10cmほど掘りくぼめられた凹凸の有る面であるが、赤変硬化は認められない。

炉土層解説

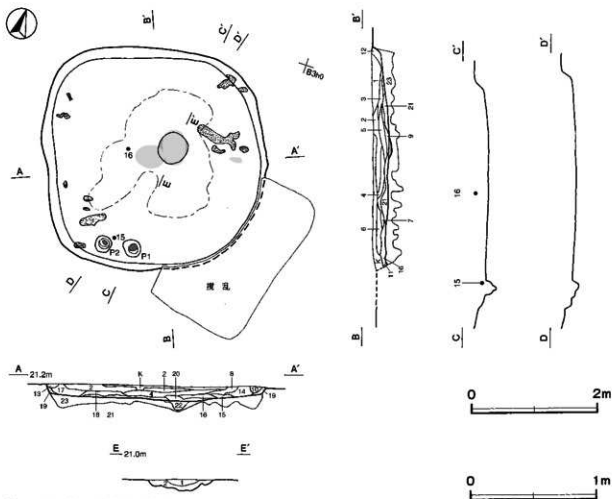
- | | |
|------------------------|---------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子少量 | 2 濃い黄褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
|------------------------|---------------------------------|

ピット 2か所。南壁際に位置するP1・P2は深さ15cm・10cmで、炉と向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットの可能性がある。P1・P2の底面に、径10cmほどの柱のあたりとみられる円形及び楕円形の硬化範囲が認められる。

覆土 21層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。なお、第22・23層は貼床の構築土である。

土層解説

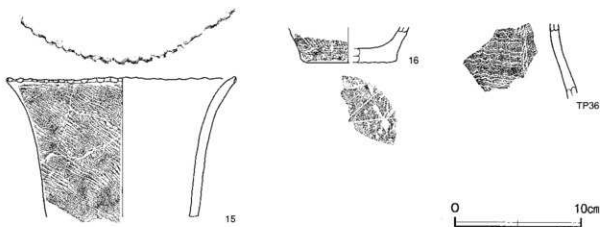
- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| 1 黒色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 13 黒色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 14 灰褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量 | 17 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 18 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 7 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 19 褐色 ロームブロック中量(第12層よりやや明るい色調) |
| 8 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 20 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 21 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 10 暗褐色 炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 22 濃い黄褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 11 暗褐色 ロームブロック中量 | 23 褐色 ロームブロック多量 |
| 12 褐色 ロームブロック中量 | |



第32図 第3号住居跡実測図

遺物出土状況 弥生土器片 120 点のほか、混入した縄文土器片 13 点、土器片錘 1 点が出土している。15 は、南壁際の覆土中層から出土している。16 は、中央部の確認面に近い覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。また、炭化材や焼土の出土状況から、焼失住居と考えられる。



第 33 図 第 3 号住居跡出土遺物実測図

第 3 号住居跡出土遺物観察表 (第 33 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
15	弥生土器	甕	[180]	(110)	-	長石	にぶい橙	普通	口唇部に斜目 附加糸一種縄文施文	覆土中層	10% PL14
16	弥生土器	壺	-	(28)	[74]	長石・石英	にぶい橙	普通	附加糸一種縄文施文 底部本葉痕	覆土上層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP36	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい赤褐	鎌倉状工具 (4本) による洗状文	覆土中	

第 4 号住居跡 (第 34・35 図)

位置 調査区中央部の B 3 9 区、標高 21 m の台地上に位置している。

重複関係 第 63・64 号土坑を床下から確認した。

規模と形状 長軸 5.35 m、短軸 4.45 m の隅丸長方形で、主軸方向は N - 18° - W である。壁高は 8 ~ 20 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、北東コーナー部を除いて、壁際が硬化している。壁際の覆土中層から床面にかけて、焼土及び炭化材を確認した。

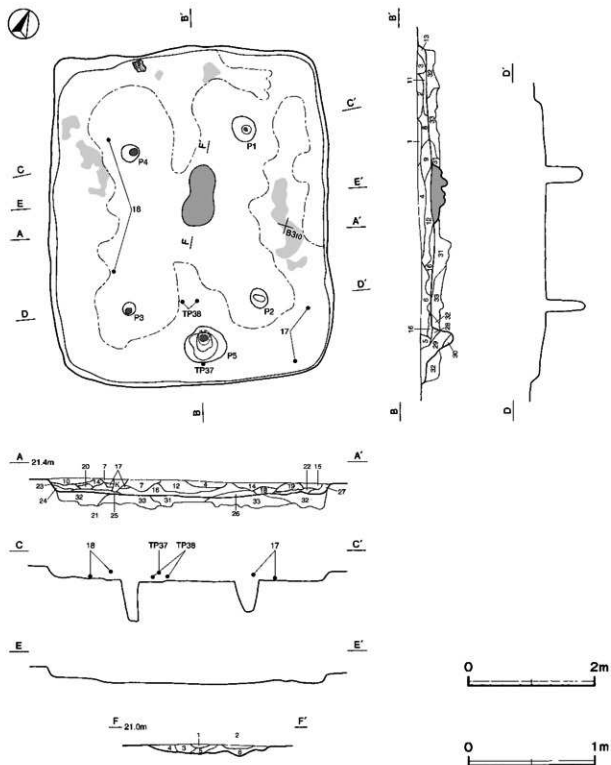
炉 中央部に付設されている。長径 95 cm、短径 50 cm の不整楕円形を呈する地床炉である。炉床は、床面から 8 cm ほど掘りくぼめられた凹凸の有る面であるが、赤変硬化は認められない。

炉土層解説

1 黒色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・黒色粒子微量	4 にぶい青褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子少量
2 にぶい青褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子・黒色粒子微量	5 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・黒色粒子少量、炭化粒子微量
3 にぶい赤褐色	焼土ブロック多量、黒色粒子少量、ローム粒子微量	6 赤褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子・黒色粒子少量、炭化粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は深さ51～64cmで、配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ44cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P1・P3～P5の底面に、径5～15cmの柱のあたりとみられる円形及び楕円形の硬化範囲が認められる。

覆土 30層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。なお、第31～33層は貼床の構築土である。

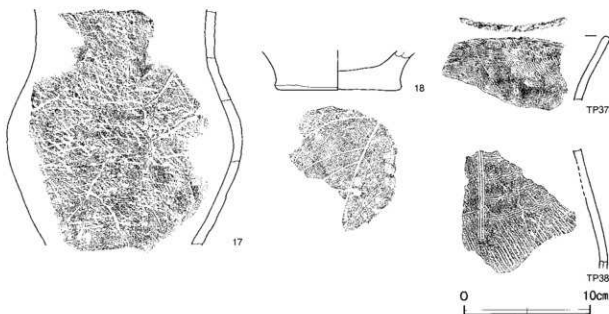


第34図 第4号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|-----------|-------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 18 黒 褐 色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 19 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 20 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 21 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 黒 褐 色 | ローム粒子少量 | 22 におい黄褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 6 におい黄褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・黒色粒子微量 | 23 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 7 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 24 褐 色 | ロームブロック多量 |
| 8 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 25 黄 褐色 | ロームブロック多量 |
| 9 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 26 褐 色 | ロームブロック中量(第23層よりやや明るい色調) |
| 10 黒 褐 色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 27 灰黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 11 黒 褐 色 | ロームブロック少量 | 28 褐 色 | ロームブロック多量(第24層よりやや暗い色調) |
| 12 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 29 黒 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 13 におい黄褐色 | ロームブロック中量 | 30 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 14 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 31 黄 褐色 | ロームブロック中量、黒色粒子微量 |
| 15 灰黄褐色 | ロームブロック少量 | 32 灰黄褐色 | ロームブロック・黒色粒子中量 |
| 16 黒 褐 色 | ロームブロック多量 | 33 褐 色 | ロームブロック中量、黒色粒子微量 |
| 17 黒 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 弥生土器片173点、石器1点(磨石)、剥片11点のほか、混入した縄文土器片37点が出土している。17は南東コーナー部、TP38はP5の北側の覆土下層からそれぞれ出土している。18は、西壁寄りの覆土下層と覆土中層から出土した破片が接合したものである。TP37は、南壁際の覆土中層から出土している。
所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。また、炭化材や焼土の出土状況から、焼失住居と考えられる。



第35図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表(第35図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
17	弥生土器	壺	-	(18.6)	-	長石・石英	褐	普通	短輪縁条体による網目状熱赤文	覆土下層	20%
18	弥生土器	壺	-	(3.2)	9.8	長石・石英	橙	普通	底部木葉痕	覆土下層 覆土中層	5%
TP37	弥生土器	壺	長石・石英			におい赤褐			口径部に縄文文 口径部に附加条一種縄文施文	覆土中層	PL15
TP38	弥生土器	壺	長石・石英・赤色粒子			におい黄橙			磨面状工具(3本)による縦方向の区画内には波状文施文 胴部に附加条一種縄文施文	覆土下層	PL15

第6号住居跡（第36・37図）

位置 調査区中央部のB3e7区、標高21mの台地上に位置している。

重複関係 第65号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.50m、短軸5.05mの隅丸長方形で、主軸方向はN-40°-Wである。壁高は30～34cmで、外傾して立ち上がっている。

床 中央部を除いて、壁際が硬化している。炉の北側に深さ10cmほどの円形状の凹みがある。炭化材及び焼土が集中して確認できたが、性格は不明である。また南東壁際の中央部はなだらかに傾斜して周囲より凹んでいる。平面形は長径83cm、短径65cmの半円形状を呈し、深さは12cmである。位置から貯蔵穴の可能性が考えられるが、明確な痕跡は確認されていない。

炉 中央部に付設されている。長径80cm、短径68cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面から7cmの深さに位置する第7層上面と考えられるが、赤変硬化は認められない。第7層は、掘方への埋土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|--------------------|
| 1 黒色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 6 暗赤褐色 | ロームアブロック・焼土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 7 明黄褐色 | ロームアブロック中量 |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 | | |

ピット 6か所。P1～P4は深さ40～45cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5・P6は深さ29cm・47cmで、ともに性格は不明である。P1～P4の底面に、柱のあたりとみられる径10cmほどの円形及び楕円形の硬化範囲が認められる。

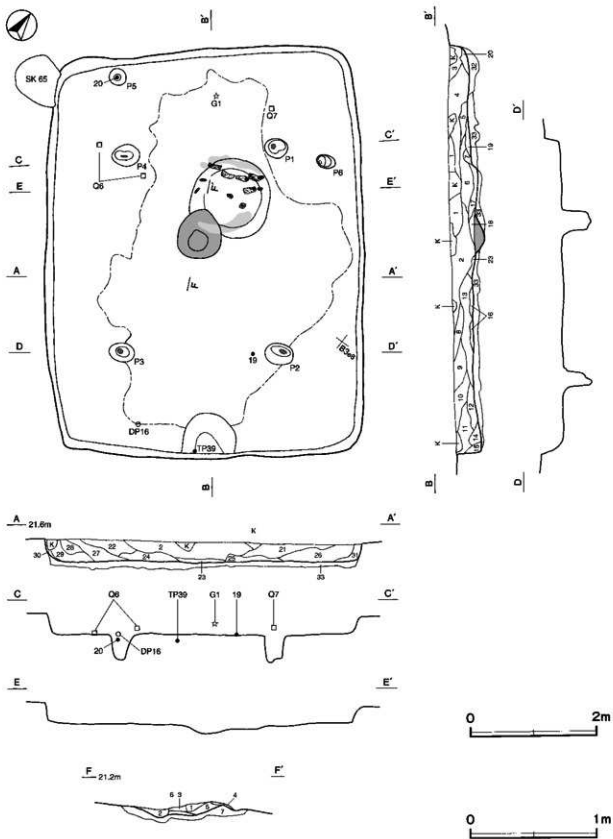
覆土 31層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。また、第32・33層は貼床の構築土である。

土層解説

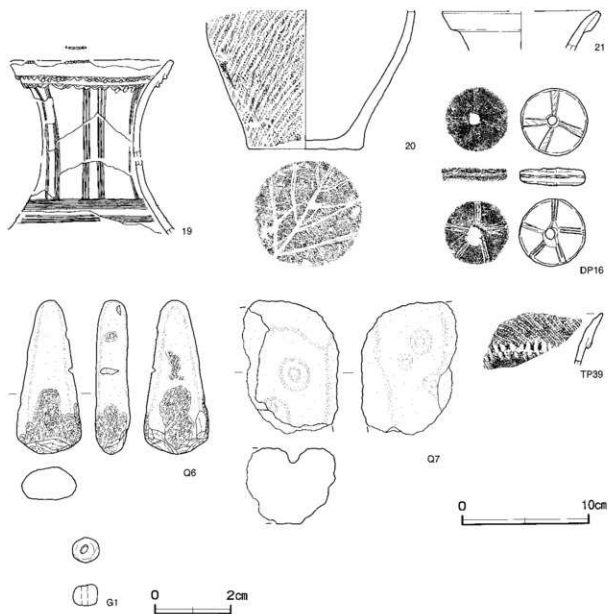
- | | | | |
|----------|--------------------------|-----------|------------------------|
| 1 黒色 | 黒色粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 17 黒褐色 | 炭化物中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 黒色粒子少量、ロームアブロック微量 | 18 黒褐色 | ロームアブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームアブロック・黒色粒子少量、炭化粒子微量 | 19 暗褐色 | ロームアブロック多量 |
| 4 黒褐色 | ロームアブロック少量、黒色粒子微量 | 20 暗褐色 | ロームアブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ロームアブロック中量、黒色粒子少量 | 21 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・黒色粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 炭化物少量、ロームアブロック・焼土粒子微量 | 22 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子微量 |
| 7 に近い赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 23 暗褐色 | ロームアブロック中量、黒色粒子少量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量 | 24 灰黄褐色 | ロームアブロック少量、黒色粒子微量 |
| 9 暗褐色 | 黒色粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 25 黒褐色 | ロームアブロック多量 |
| 10 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子少量、ローム粒子微量 | 26 暗褐色 | ロームアブロック・黒色粒子少量 |
| 11 暗褐色 | ローム粒子少量、黒色粒子微量 | 27 暗褐色 | ロームアブロック・黒色粒子少量、焼土粒子微量 |
| 12 暗褐色 | ロームアブロック少量、炭化粒子・黒色粒子微量 | 28 黒褐色 | ロームアブロック・炭化粒子・黒色粒子微量 |
| 13 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量 | 29 灰黄褐色 | ロームアブロック中量、黒色粒子微量 |
| 14 暗褐色 | ロームアブロック・炭化物・黒色粒子微量 | 30 に近い黄褐色 | ロームアブロック中量、黒色粒子少量 |
| 15 黒褐色 | ロームアブロック・黒色粒子少量 | 31 暗褐色 | ロームアブロック少量、黒色粒子微量 |
| 16 黒褐色 | ロームアブロック中量 | 32 黄褐色 | ロームアブロック中量、黒色粒子微量 |
| | | 33 黄褐色 | ロームアブロック・黒色粒子中量 |

遺物出土状況 弥生土器片114点、土製品1点（紡錘車）、石器3点（敲石2、凹石1）、ガラス製品1点（小玉）のほか、混入した縄文土器片73点が出土している。19はP2の南西側、DP16は南東壁際、Q6は南西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。20はP5の覆土、TP39は南東壁際中央部の凹みから、それぞれ出土している。G1は、北西壁際の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。確認できた炭化材や焼土は部分的であり、焼失住居か否かは明確でない。



第36图 第6号住居跡実測図



第37図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表 (第37図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
19	弥生土器	甕	(12.4)	(13.7)	-	長石・石英	灰褐色	普通	口唇部に斜み目 複合口縁下部に交互刺突文 胴部は機軸状工具(3本)による縦方向の区画	覆土下層	20% PL14
20	弥生土器	甕	-	(11.0)	8.8	長石・石英	にぶい 黄褐色	普通	胴部に附加条一種縦文飾文 底部本葉形	P 5覆土	40% PL14
21	弥生土器	甕	(12.1)	(3.1)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい 赤褐色	普通	複合口縁 無文	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP39	弥生土器	甕	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	複合口縁に附加条一種縦文飾文 口縁部下部に棒状工具による刺突	南東部掘り込み	PL15

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP16	結核草	52	1.4	0.8	426	長石・石英	上面・下面・側面に機軸文	覆土下層	PL14

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	磁石	12.2	5.1	2.8	(193)	シルト岩	両面・側面下部に敲打痕 捺捺痕有	覆土下層	PL16
Q 7	凹石	(10.6)	(7.6)	(6.0)	(630)	花崗岩	両面に断面形がV字状の凹み	覆土中層	PL16

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
G 1	小玉	0.58	0.68	0.19	0.4	ガラス	透青 管切りカ	覆土中層	PL16

第7号住居跡（第38図）

位置 調査区東部のB 4区区、標高21 mの台地上に位置している。

重複関係 第2号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北東部が調査区域外に延びているため、確認できたのは南北軸1.27 m、東西軸5.07 mのみである。平面形は、一辺5.0 mほどの隅丸方形又は隅丸長方形と推定できる。壁高は35～50 cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、壁際が硬化している。壁下には壁溝が巡っている。

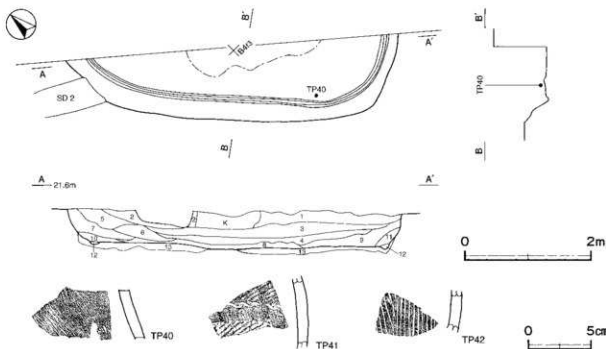
覆土 12層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。また、第13層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|--------|------------------|
| 1 黒色 | 黒色粒子中量、ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、黒色粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・黒色粒子中量、焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック中量、黒色粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 黒色粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック中量、黒色粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 黒色粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒色 | 黒色粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子少量、黒色粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・黒色粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・黒色粒子少量 |
| | | 13 褐色 | ロームブロック多量、黒色粒子中量 |

遺物出土状況 弥生土器片27点、割片1点のほか、混入した縄文土器片37点が出土している。TP40は、南西壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期と考えられる。



第38図 第7号住居跡・出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表 (第38図)

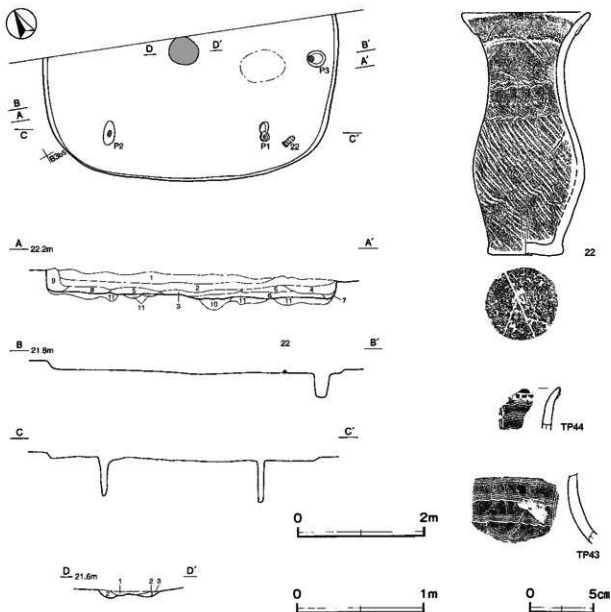
番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP40	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい赤褐色	附加赤縄文施文	覆土下層	
TP41	弥生土器	壺	長石	にぶい黄褐色	単筋縄文 S字状の結節文	覆土下層	
TP42	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい黄褐色	附加赤縄文施文	覆土下層	

第8号住居跡 (第39図)

位置 調査区中央部のB3b5区、標高21mの台地上に位置している。

規模と形状 北部が調査区域外に伸びているため、南北軸は2.36mが確認されただけで、東西軸は4.70mである。平面形は主軸方向がN-58°-Wで、一辺4.7mほどの隅丸方形又は隅丸長方形と推定できる。壁高は6~25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、炉南東側の一部を除いて、全体的に硬化している。



第39図 第8号住居跡・出土遺物実測図

炉 ほぼ中央部に付設されていたと推測できる。径50cmほどの円形を呈する地床炉である。炉床は床面から5cmほど掘りくぼめられた凹凸の有る面であるが、赤変硬化は認められない。

炉土層解説

- 1 黒 色 焼土ブロック中量、炭化物少量、ローム粒子微量 3 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
2 に近い赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 3か所。P1・P2は深さ65cm・59cmで、配置から主柱穴と考えられる。東壁際に位置するP3は深さ37cmで、炉と向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットの可能性がある。P1～P3の底面に、柱のあたりとみられる径4～10cmの円形及び楕円形の硬化範囲が認められる。

覆土 9層に分層できる。第1・2層はレンズ状の堆積状況から自然堆積とみられるが、第3層以下は、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。また、第10・11層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子・黒色粒子微量 7 に近い黄褐色 ロームブロック中量
2 黒 褐色 黒色粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 8 黒 褐色 ロームブロック少量、黒色粒子微量
3 黒 褐色 炭化粒子・黒色粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 9 暗 褐色 黒色粒子少量、ロームブロック微量
4 暗 褐色 ロームブロック・黒色粒子微量 10 明 赤 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、黒色粒子微量
5 黒 褐色 ロームブロック・黒色粒子少量、炭化粒子微量 11 明 黄 褐色 ロームブロック中量、黒色粒子微量
6 黒 褐色 ロームブロック中量、黒色粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片42点、土製品1点(紡錘車)のほか、混入した縄文土器片5点が出土している。22は、南コーナー部の床面に近い覆土下層から横位で出土している。TP43・TP44は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第8号住居跡出土遺物観察表 (第39図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
22	弥生土器	壺	99	192	58	長石・石英・赤緑	に近い黒	普通	口縁部無文、肩部無文等の上下に附加条線文及び結節文、腹部に附加帯一種横文、底部本葉無	覆土下層	95%、PL14

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP43	弥生土器	壺	長石・石英	に近い黒	櫛歯状工具(5本)による縦方向の区画内に波状文充填	覆土中	PL15
TP44	弥生土器	壺	長石	に近い黄緑	櫛歯状工具(4本)による波状文	覆土中	

第10号住居跡 (第40・41図)

位置 調査区中央部のB3c3区、標高22mの台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.19m、短軸4.10mの隅丸方形で、主軸方向はN-27°-Wである。壁高は10～35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 南コーナー部に若干の高まりがある以外は、ほぼ平坦である。中央部から南西壁際にかけて硬化している。

炉 中央部の北寄りに付設されている。径60cmほどの円形を呈する地床炉である。炉床は床面から9cmの深さに位置する第11層上面であり、火を受けて赤変硬化している。第11層は、掘方への埋土である。

炉土層解説

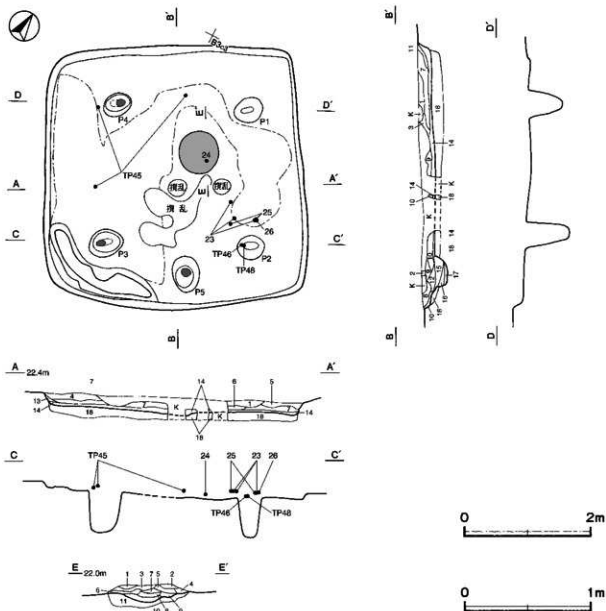
- 1 黒 色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 7 暗 赤 褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
2 黒 色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 8 暗 赤 褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗 赤 褐色 焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量 9 暗 赤 褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
4 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 10 暗 赤 褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
5 暗 赤 褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 11 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
6 暗 赤 褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は深さ54～69cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ25cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P3～P5の底面に、柱のあたりとみられる径10cmほどの円形及び楕円形の硬化範囲が認められる。

覆土 17層に分層できる。攪乱を受けており全容は不明であるが、多くの層にロームブロックが含まれており、埋め戻されていると考えられる。また、第18層は貼床の構築土である。

土層解説

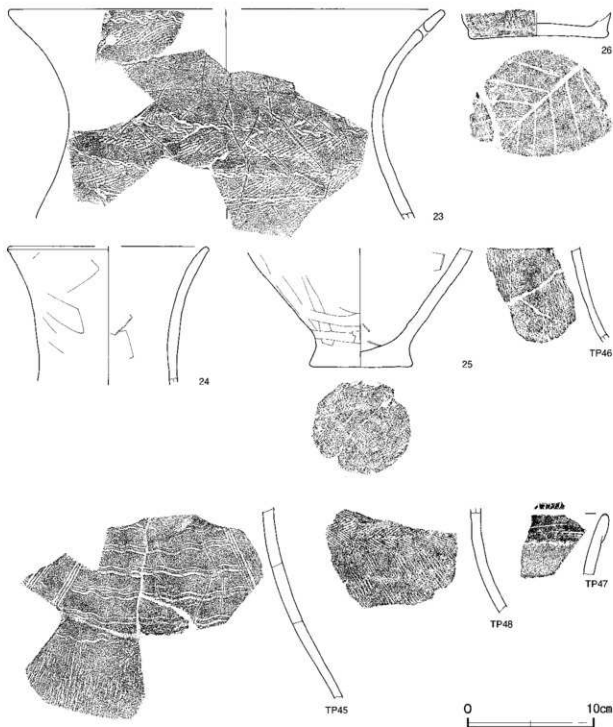
- | | |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒色 黒色粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、黒色粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・黒色粒子少量、炭化物微量 | 10 褐色 ロームブロック中量、黒色粒子微量 |
| 3 黒色 ロームブロック・黒色粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 褐色 ロームブロック少量、黒色粒子微量 |
| 4 黒色 黒色粒子中量、ロームブロック少量 | 12 黒褐色 ロームブロック少量、黒色粒子中量 |
| 5 黒褐色 黒色粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 13 暗褐色 ロームブロック・黒色粒子中量 |
| 6 灰黄褐色 ロームブロック少量 | 14 に近い黄褐色 ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量 |
| 7 褐色 黒色粒子中量、ロームブロック少量 | 15 に近い黄褐色 ロームブロック中量、黒色粒子少量 |
| 8 に近い黄褐色 ロームブロック・黒色粒子少量 | 16 黒褐色 ロームブロック・黒色粒子少量 |
| | 17 褐色 ロームブロック多量、黒色粒子微量 |
| | 18 褐色 ロームブロック多量 |



第40図 第10号住居跡実測図

遺物出土状況 弥生土器片597点、剥片3点のほか、混入した縄文土器片7点が、P2周囲の覆土上層から下層にかけて集中して出土している。TP46・TP48はP2直上の覆土下層、24は炉直上の覆土中層、23・25・26はP2北西側の覆土上層からそれぞれ出土している。TP45は、炉の北西側の覆土中層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第41図 第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表(第41図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
23	赤生土器	壺	[94.0]	(16.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部に単線縄文及び局所文、頸部無文帯の上下に単線縄文及び局所文、施丸孔有り	覆土上層	5% PL14
24	赤生土器	壺	[15.5]	(10.9)	-	長石・石英・姜母	明赤褐	普通	外・内面へラナテ整形	覆土中層	5%
25	赤生土器	壺	-	(9.4)	7.6	長石・石英	橙	普通	外・内面へラナテ整形	覆土上層	5%
26	赤生土器	壺	-	(2.0)	10.4	長石・石英	にぶい橙	普通	附加染縄文施文 底部木炭痕	覆土上層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP45	赤生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい褐	轆轤状工具(2本)による縦方向の区画内に波状文光填 胴部に附加染一種縄文施文	覆土中層	PL15
TP46	赤生土器	壺	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	沈線による縦方向の区画内を赤形 沈線文	覆土下層	PL15
TP47	赤生土器	壺	長石・石英	にぶい橙	口唇部に刻み目 附加染一種縄文施文	覆土中	PL15
TP48	赤生土器	壺	長石・石英・雲母	橙	胴部単線縄文による羽状焼成 胴部に附加染一種縄文施文	覆土下層	

第11号住居跡(第42・43図)

位置 調査区西部のB2h0区、標高22mの台地上に位置している。

重複関係 第135・136号土坑を床下から確認した。第4号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.48m、短軸6.60mの隅丸長方形で、主軸方向はN-47°-Wである。壁高は15~24cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。中央部の南東側及びピットの周囲を除いて、硬化している。

炉 中央部に付設されている。長径133cm、短径59cmの楕円形を呈する地床である。炉床は床面から5cmの深さに位置する第3~7層上面であり、火を受けて赤変硬化している。第3~7層は、掘方への埋土である。

炉土層解説

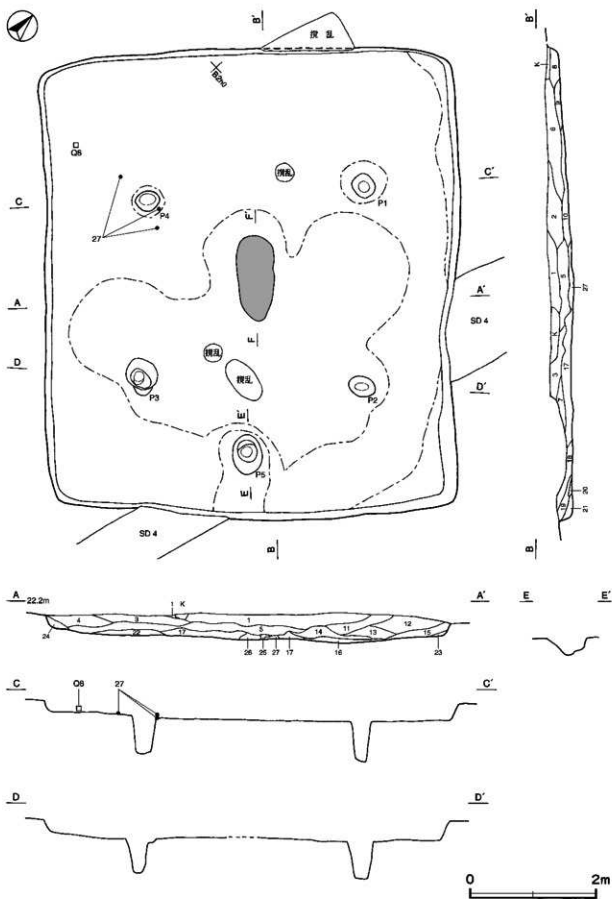
1 黒 褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・黒色粒子少量	5 灰黄褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
2 黒 褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化物微量	6 にぶい青褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・黒色粒子微量
3 黒 褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	7 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、黒色粒子微量
4 褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量		

ピット 5か所。P1~P4は深さ52~65cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ28cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

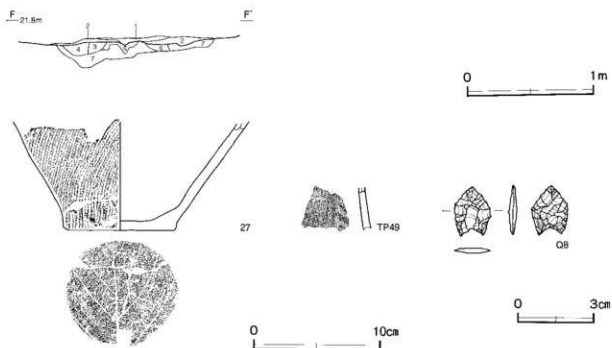
覆土 27層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐色	黒色粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	15 黒 褐色	ロームブロック少量、黒色粒子微量
2 黒 褐色	ローム粒子・黒色粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	16 黒 褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・黒色粒子微量
3 黒 褐色	黒色粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量	17 暗 褐色	黒色粒子少量、ロームブロック微量
4 黒 褐色	ロームブロック・黒色粒子微量	18 灰黄褐色	ローム粒子・黒色粒子少量
5 黒 褐色	黒色粒子少量、ローム粒子微量	19 灰黄褐色	黒色粒子中量、ローム粒子少量
6 黒 褐色	黒色粒子少量、ロームブロック微量	20 暗 褐色	ロームブロック・黒色粒子中量
7 黒 褐色	黒色粒子中量、ローム粒子少量	21 暗 褐色	ロームブロック・黒色粒子微量
8 暗 褐色	ローム粒子・黒色粒子少量	22 黒 褐色	ローム粒子中量、黒色粒子微量
9 黒 褐色	黒色粒子中量、ロームブロック少量	23 黒 褐色	ロームブロック中量、黒色粒子微量
10 暗 褐色	ロームブロック中量、黒色粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	24 にぶい青褐色	ロームブロック少量、黒色粒子微量
11 黒 褐色	黒色粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量	25 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、黒色粒子・炭化粒子微量
12 黒 褐色	ローム粒子・黒色粒子中量	26 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、黒色粒子少量、炭化粒子微量
13 黒 褐色	黒色粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	27 暗 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・黒色粒子少量
14 黒 褐色	ローム粒子・黒色粒子中量、焼土粒子少量		



第42图 第11号住居跡实测图



第43図 第11号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 弥生土器片41点，土製品1点（土玉カ），石器1点（石鏃），剥片5点のほか，混入した縄文土器片301点，土器片円盤1点が出土している。27・Q8は，P4周囲の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から後期と考えられる。

第11号住居跡出土遺物観察表（第43図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
27	弥生土器	甕	-	(8.5)	8.4	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	附加条一種縄文施文 底部に木炭痕	覆土下層	30%
番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考				
TP49	弥生土器	甕	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	沈線文	覆土中					
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
Q8	石鏃	20	1.4	0.3	0.7	黒曜石	両面押圧潤磨 円基無葉痕	覆土下層	PL16		

表5 弥生時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸 (m)	厚さ				柱穴	出入口	ドット	竪				
3	B 310	N - 21° - W	隅丸方形	3.54 × 3.50	11 - 15	平垣	-	-	2	-	1	-	人為	弥生土器	後期前葉	
4	B 319	N - 18° - W	隅丸正方形	5.35 × 4.45	8 - 20	平垣	-	4	1	-	1	-	人為	弥生土器・磨石	後期前葉	SK63・64 → 本跡
6	B 347	N - 40° - W	隅丸正方形	6.50 × 5.05	30 - 34	一部 凹み	-	4	-	2	1	-	人為	弥生土器・粘土器・磨石・四石・ウツス小石	後期前葉	本跡 → SK65
7	B 413	-	覆土下層 隅丸正方形	(1.27 × 5.07)	35 - 50	平垣	一部	-	-	-	-	-	人為	弥生土器	後期	本跡 → SD 2
8	B 315	N - 58° - W	隅丸正方形	(2.36) × 4.70	6 - 25	平垣	-	2	1	-	1	-	自然 人為	弥生土器・粘土器	後期前葉	
10	B 343	N - 27° - W	隅丸方形	4.19 × 4.10	10 - 35	平垣	-	4	1	-	1	-	人為	弥生土器	後期前葉	
11	B 210	N - 47° - W	隅丸正方形	7.05 × 6.60	15 - 24	平垣	-	4	1	-	1	-	人為	弥生土器・石鏃・土玉カ	後期	SK135・136 → 本跡 → SD 4

3 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴住居跡2軒を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

堅穴住居跡

第2号住居跡（第44・45図）

位置 調査区東部のB4e1区、標高21mの台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.65m、短軸3.57mの隅丸方形で、主軸方向はN-22°-Wである。壁高は8～14cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部を除き壁際が硬化している。

炉 中央部の東寄りに付設されている。長径38cm、短径31cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面とほぼ同じ高さに位置する第2・3層上面と考えられるが、赤変硬化は認められない。

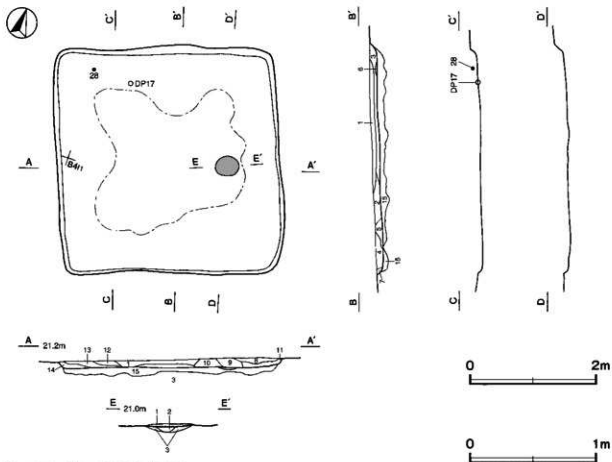
伊土層解説

- | | |
|-----------------------------|------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量 | 3 灰黄褐色 ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | |

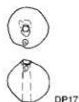
覆土 14層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。なお、第15層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 焼土粒子中量、ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 2 灰黄褐色 ロームブロック中量、黒色粒子微量 | 10 黒褐色 ロームブロック・黒色粒子少量 |
| 3 にい黄褐色 ロームブロック中量、黒色粒子少量 | 11 暗褐色 ロームブロック・黒色粒子少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック中量 | 12 暗褐色 ロームブロック中量、黒色粒子少量 |
| 5 にい黄褐色 ロームブロック多量 | 13 にい黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 ロームブロック中量、黒色粒子微量 | 14 褐色 ロームブロック多量、黒色粒子微量 |
| 7 灰黄褐色 ロームブロック多量 | 15 暗褐色 ロームブロック多量、黒色粒子微量 |
| 8 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | |



第44図 第2号住居跡実測図



第45図 第2号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片23点(器台2、壺・甕類6、不明15)、土製品1点(土玉)、剥片1点のほか、混入した縄文土器片28点、弥生土器片7点、土器片鏝2点が出土している。DP17・28は、北壁際の床面及び覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半と考えられる。

第2号住居跡出土遺物観察表(第45図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
28	土師器	器台	5.9	4.6	7.6	灰石・石英	にぶい橙	普通	全部外・内面ナデ 下部外、ナデ		覆土上層	60% PL15
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴			出土位置	備考	
DP17	土玉	3.8	3.3	0.4	31.6	灰石	表面ナデ	一方から穿孔		床面	PL15	

第5号住居跡(第46・47図)

位置 調査区中央部のB3g8区、標高21mの台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.86m、短軸4.72mの隅丸方形で、主軸方向はN-25°-Wである。壁高は30~40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、炬の周囲と壁際を除いて硬化している。壁下には壁溝が巡っている。

炬 2か所。炬1は、中央部の東寄りに付設されている。長径75cm、短径56cmの楕円形を呈する地床炬である。炬床は床面から8cmの深さに位置する第6層上面で、火を受けて赤変硬化している。炬2は、炬1の南西側に位置し、径30cmほどの円形を呈する地床炬である。炬床は床面から5cmの深さに位置する第7~11層上面と考えられるが、赤変硬化は認められない。炬1・2の覆土には、硬化した層が認められないことから、2か所とも併用されていたものと考えられる。

炬1・2土層解説

1 赤黒色	焼土ブロック・炭化物中量、ローム粒子少量	6 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
2 灰褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子中量、ローム粒子微量	7 灰黄褐色	ロームブロック中量、黒色粒子少量
3 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	8 褐色	ロームブロック中量、黒色粒子微量
4 黄褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子少量	9 にぶい黄褐色	ロームブロック・黒色粒子少量
5 にぶい赤褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量	10 黄褐色	ロームブロック中量、黒色粒子微量
		11 にぶい黄褐色	ロームブロック中量、黒色粒子微量

ピット 南東壁際の中央部に位置するP1は深さ38cmで、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1の底面に、径10cmほどの柱のあたりとみられる円形の硬化範囲が認められる。

貯蔵穴 南東壁際の中央部よりやや東寄りに位置し、平面形は長径80cm、短径48cmの半円形状を呈し、深さは21cmである。底面はやや凹凸があり、壁は外傾して立ち上がっている。

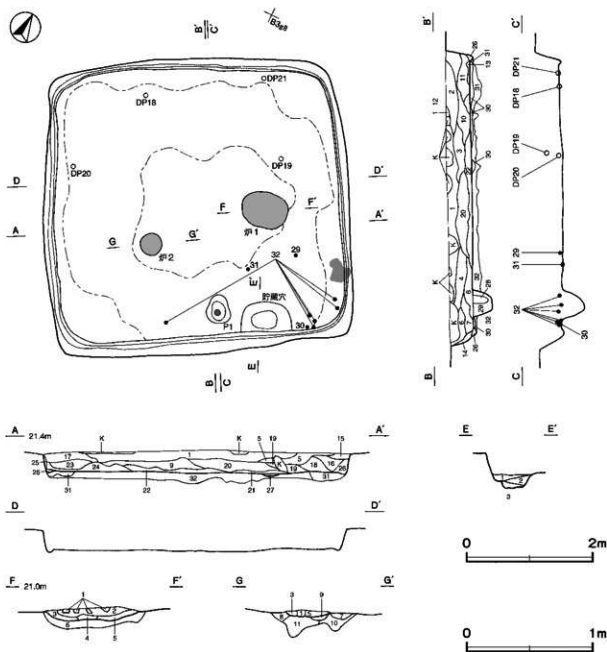
貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|----------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 に灰・黄褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | | |

覆土 29層に分層できる。第1層は含有物が少なく自然堆積とみられるが、第2層以下はブロック状の堆積状況から埋め戻されている。なお、第30～32層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|-----------|----------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子微量 | 9 黒色 | 黒色粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、黒色粒子微量 | 10 に灰・黄褐色 | ロームブロック中量、黒色粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック・黒色粒子中量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック多量、黒色粒子少量、焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 黒色粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 黄褐色 | ロームブロック多量、黒色粒子少量 |
| 6 に灰・黄褐色 | ロームブロック中量、黒色粒子少量 | 14 黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 暗褐色 | 黒色粒子少量、ロームブロック微量 | 15 褐色 | ロームブロック中量、黒色粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック・黒色粒子中量 | 16 黒褐色 | 黒色粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| | | 17 黒褐色 | ロームブロック、黒色粒子中量 |

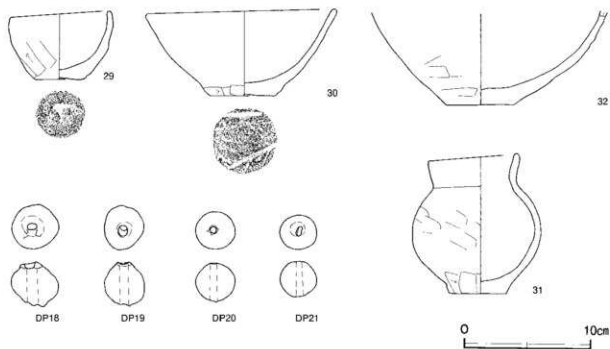


第46図 第5号住居跡実測図

- 18 にぶい黄褐色 ロームブロック多量、黒色粒子少量
 19 暗褐色 ロームブロック・黒色粒子少量
 20 黒褐色 ローム粒子中量、黒色粒子少量、焼土粒子微量
 21 褐色 ロームブロック多量、黒色粒子微量
 22 褐色 ロームブロック多量、黒色粒子中量
 23 黒褐色 黒色粒子中量、ロームブロック微量
 24 にぶい黄褐色 ロームブロック・黒色粒子少量
 25 黄褐色 ロームブロック多量

- 26 黒褐色 黒色粒子中量、ロームブロック少量
 27 にぶい赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック少量
 28 黒褐色 ロームブロック中量
 29 褐色 ロームブロック少量
 30 にぶい黄褐色 ロームブロック・黒色粒子中量
 31 黒色 黒色粒子多量、ロームブロック少量
 32 黄褐色 ロームブロック多量、黒色粒子微量

遺物出土状況 土師器片24点(碗1, 鉢2, 小形壺1, 甕1, 壺・甕類17, 不明2), 土製品4点(土玉)のほか、混入した縄文土器片139点, 弥生土器片56点が, 東コーナー部の覆土下層から集中して出土している。31は, 貯蔵穴北側の床面に近い覆土下層から斜位で出土している。32は, 東コーナー部の覆土下層から散在して出土した破片が接合したものである。29は北東壁寄り, 30は東コーナー部, DP18・DP20・DP21は壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。DP19は, 北東壁寄りの覆土中層から出土している。また, 北東壁際の覆土中層から上層にかけて, 投棄されたヤマトシジミが出土しており, 殻長が2~4cmのものが主体である(表6)。
所見 遺物の出土状況から, 貝や土器は廃絶後の埋め戻しの際に, 東コーナー側から投棄されたと想定できる。時期は, 出土土器から前期と考えられる。



第47図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表(第47図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
29	土師器	碗	7.3	5.4	3.6	長石・石英	橙	普通	外面ヘラ削り後, ナデ 内面ナデ	覆土下層	95% PL15
30	土師器	鉢	14.6	6.8	5.0	長石・石英	橙	普通	外・内面ナデ 底部刷毛ヘラ削り後, ナデ	覆土下層	100% PL15
31	土師器	小形壺	6.8	11.0	4.0	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外・内面ナデ 底部刷毛ヘラ削り後, ナデ	覆土下層	90% PL15
32	土師器	甕	-	(72)	5.4	長石	橙	普通	外面ヘラ削り後, ナデ 内面ナデ	覆土下層	30%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP18	土玉	37	3.5	0.8	33.0	長石・石英・赤色粒子	表面ナデ 一方向から穿孔	覆土下層	PL15
DP19	土玉	32	3.5	0.7	34.9	長石	表面ナデ 一方向から穿孔	覆土中層	PL15
DP20	土玉	31	3.1	0.6	36.7	長石・石英	表面ナデ 一方向から穿孔	覆土下層	PL15
DP21	土玉	30	2.7	0.7	19.4	長石・石英	表面ナデ 一方向から穿孔	覆土下層	PL15

表6 第5号住居跡出土具種別集計表

器種	長さ	10cm未満	10cm～ 15cm未満	15cm～ 20cm未満	20cm～ 25cm未満	25cm～ 30cm未満	30cm～ 35cm未満	35cm～ 40cm未満	40cm～ 45cm未満	小計(個)	総合計(個)
ヤマトシジミ		1	1	5	39	31	41	17	4	139	203

※殻頂部が残っているものを集計の対象(総合計)とし、さらに殻長が計測できるものは、大きさに別集計(小計)した。

表7 古墳時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長×短(m)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考
								土壇	土入口(ピット)	竪穴				
2	B 4 e1	N-22°-W	隅丸方形	3.65×3.57	8-14	平坦	-	-	-	1	-	人為 土師器・土玉	前期前半	
5	B 3 g8	N-25°-W	隅丸方形	4.86×4.72	30-40	平坦	全周	-	1	-	2	1 自然 土師器・土玉・ ヤマトシジミ	前期	

4 中世・近世の遺構と遺物

当時代の遺構は、墓坑の可能性のある土坑9基、溝跡2条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 墓坑の可能性のある土坑

確認できた土坑の中で、出土遺物が少ないため時期や性格が不明なものも多いが、覆土が人為的に埋め戻されており、またその形状から墓坑の可能性のある9基を掲載する。以下、出土遺物を図示した第52・55・108号土坑については文章で説明し、その他の土坑については、それぞれ実測図と土層解説、一覧表で掲載する。

第52号土坑(第48図)

位置 調査区中央部のB3d0区、標高21mの台地上に位置している。

規模と形状 長径0.78m、短径0.58mの楕円形で、長径方向はN-0°である。深さは15cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

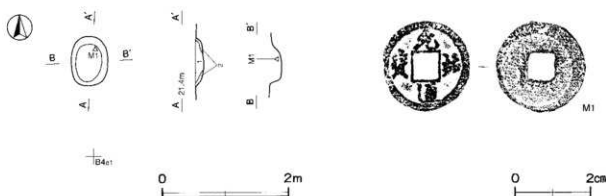
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており、不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・黒色粒子微量 2 褐色 ロームブロック多量、黒色粒子少量

遺物出土状況 銭貨1点(元祐通寶)が出土している。M1は、北壁際の覆土中層から出土している。

所見 銭貨が出土しており覆土が埋め戻されていることから、土坑墓と考えられる。時期は、中世以降と考えられる。



第48図 第52号土坑・出土遺物実測図

第52号土坑出土遺物観察表(第48図)

番号	残名	径	孔径	厚さ	重量	初測年	材質	特徴	出土位置	備考
M1	元祐通寶	24	0.7	0.2	2.5	1086	銅	行書	覆土中層	PL16

第55号土坑(第49図)

位置 調査区中央部のB3d9区、標高21mの台地上に位置している。

規模と形状 長径1.14m、短径0.95mの楕円形で、長径方向はN-44°-Eである。深さは32cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

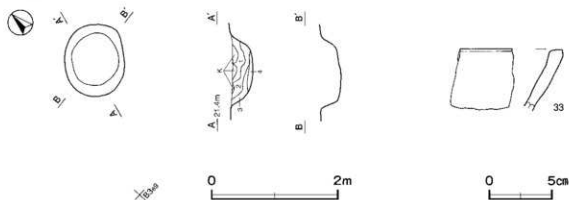
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており、不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|-------|------------------|
| 1 灰黄褐色 | ロームブロック少量、黒色粒子微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック・黒色粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、黒色粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、黒色粒子少量 |

遺物出土状況 土師質土器片1点(銅)が出土している。33は、覆土中から出土している。

所見 覆土が埋め戻されていることから、土坑墓の可能性がある。時期は、出土土器から中世以降と考えられる。



第49図 第55号土坑・出土遺物実測図

第55号土坑出土遺物観察表(第49図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	動土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
33	土師質土器	銅	-	(48)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁部片 外面磨付着	覆土中	5%

第108号土坑（第50図）

位置 調査区中央部のB3e1区、標高21mの台地上に位置している。

規模と形状 長径1.73m、短径1.53mの不整楕円形で、長径方向はN-85°-Wである。深さは98cmで、底面の中央部には方形状の凹みがある。壁は外傾して立ち上がっている。

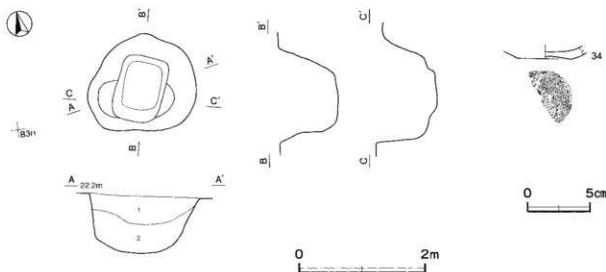
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており、不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点（小皿）、陶器片1点（皿）、磁器片1点（碗カ）のほか、混入した縄文土器片1点、土師器片12点が出土している。34は、覆土中から出土している。

所見 覆土が埋め戻されていることから、土坑墓の可能性がある。時期は、出土土器から中世以降と考えられる。



第50図 第108号土坑・出土遺物実測図

第108号土坑出土遺物観察表（第50図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	動土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
34	土師質土器	小皿	-	(1.0)	4.4	長石・石英・雲母	橙	普通	ロク口成形 底部回転糸切り	覆土中	5%

第20号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック中量
3 黒褐色 ロームブロック微量

第21号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量

第50号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック中量
3 褐色 ロームブロック多量

第57号土坑土層解説

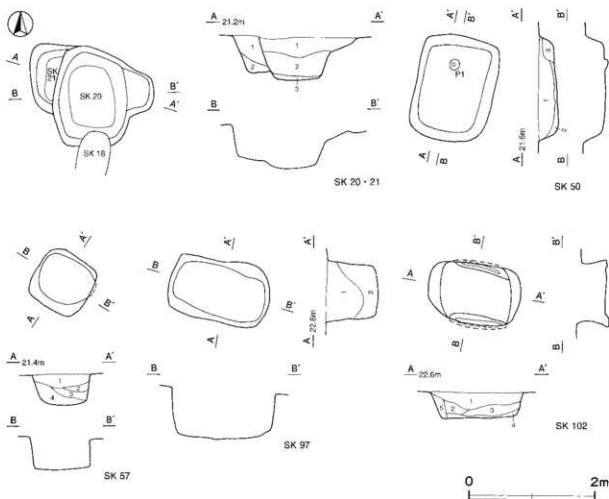
- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック中量
3 黒褐色 ロームブロック少量
4 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

第97号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量

第102号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック中量
4 黒褐色 ロームブロック微量
5 暗褐色 ロームブロック多量



第51図 第20・21・50・57・97・102号土坑実測図

表8 中世・近世の墓坑の可能性のある土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模(m, 深さ12cm)		築 造	底 面	ピット	覆土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ						
20	C 4a3	不定形	-	1.60 × (1.58)	68	外積	有段	-	人骨	-	SK21 → 本跡 → SK18
21	C 4a3	隅丸方形	-	1.09 × (0.50)	57	外積	平坦	-	人骨	-	本跡 → SK20
50	B 3j5	隅丸長方形	N-11°-E	1.69 × 1.36	34	外積	平坦	1	人骨	-	
52	B 3d0	楕円形	N-0°	0.78 × 0.58	15	外積	平坦	-	人骨	鏡筒	
55	B 3d9	楕円形	N-44°-E	1.14 × 0.95	32	外積	平坦	-	人骨	土師質土器	
57	B 3f7	方形	-	0.94 × 0.92	52	外積 直立	平坦	-	人骨	-	
97	B 2e9	隅丸長方形	N-77°-W	1.62 × 1.04	80	直立	平坦	-	人骨	-	
102	B 2a0	隅丸長方形	N-80°-W	1.47 × 0.95	40	内積 外積	凹凸	-	人骨	陶器	
108	B 3e1	不整形円形	N-85°-W	1.73 × 1.53	98	外積	凹凸	-	人骨	土師質土器・陶器・ 磁器	

(2) 溝跡

第1号溝跡(第52図)

位置 調査区東部のB 4g4 ~ C 4b2区で、標高20mの台地上に位置している。

重複関係 第22 ~ 28号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 確認できた長さは22.8mで、北東方向(N-25°-E)へ直線上に延び、両端とも調査区域外に至っている。上幅2.06~2.66m、下幅0.74~1.28m、深さ45~60cmである。断面形はU字状か逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。底面には、幅30cmほどの硬化面が確認できた。

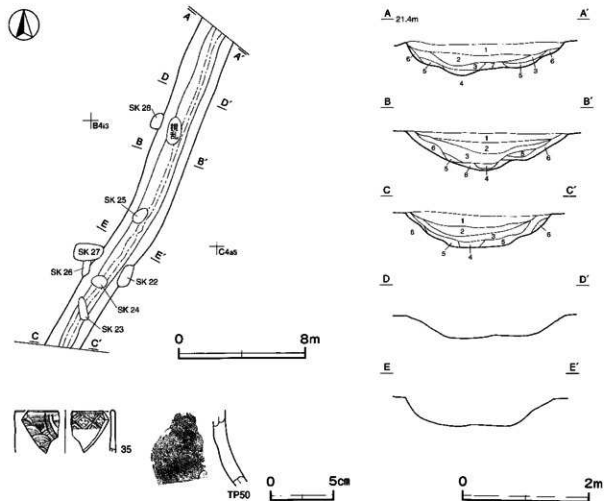
覆土 8層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック微量 | 7 暗 褐 色 | ロームブロック少量 (第6層よりやや暗い色調) |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック中量 | 8 褐 色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師質土器片1点(皿)、陶器片4点(碗、甕、皿、不明)、磁器片3点(香炉カ、蓋、不明)のほか、流れ込みによる縄文土器片90点、土師器片11点、須恵器片3点、石鍾1点、土器片鍾1点が出土している。TP50は覆土下層、35は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 底面に硬化面が確認できたことから、道路として機能していた時期もあると考えられる。時期は、出土土器から、近世と考えられる。



第52図 第1号溝跡・出土遺物実測図

第1号溝跡出土遺物観察表(第52図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・胎薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
35	磁器	香炉カ	[80]	(33)	-	緻密 透明釉	灰白	良好	外面青海波文 内面四方様文	覆土上層	5% 在地面

5 その他の遺構と遺物

今回の調査で、伴う遺物が出土していないことから、時期が明確でない土坑 108 基、溝跡 2 条を確認した。土坑は実測図と土層解説及び一覧表で、溝跡は断面図と土層解説及び一覧表で掲載し、平面図は遺構全体図(第 3 図)で掲載する。

(1) 土坑 (第 54 ~ 62 図)

第 8 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第 9 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第 10 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第 11 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第 12 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 13 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第 14 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

第 15 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第 16 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第 17 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第 18 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第 19 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第 22 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第 23 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第 24 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

第 25 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第 26 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第 27 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第 28 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第 29 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第 30 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第 31 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第 32 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第 33 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第 34 号土坑土層解説

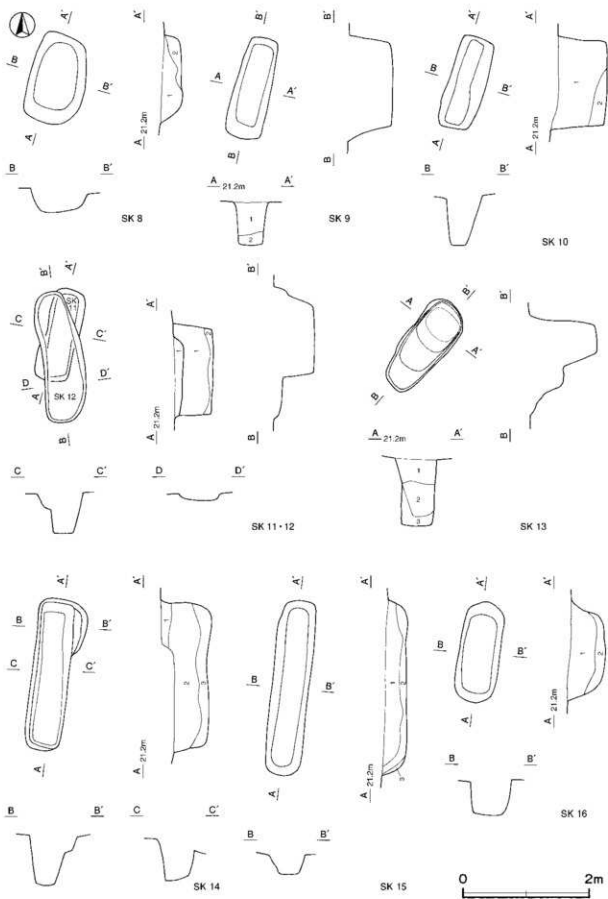
- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第 35 号土坑土層解説

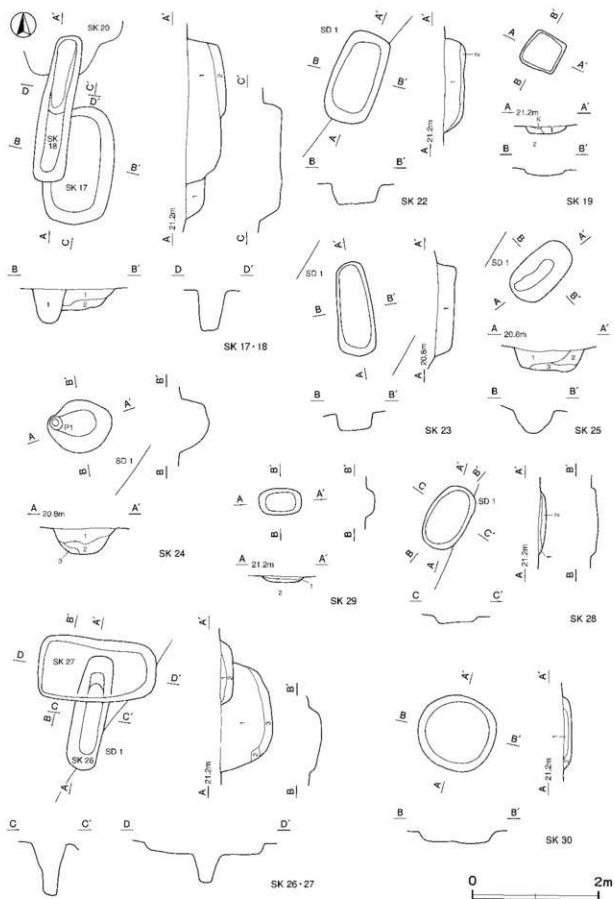
- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化材中量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第 36 号土坑土層解説

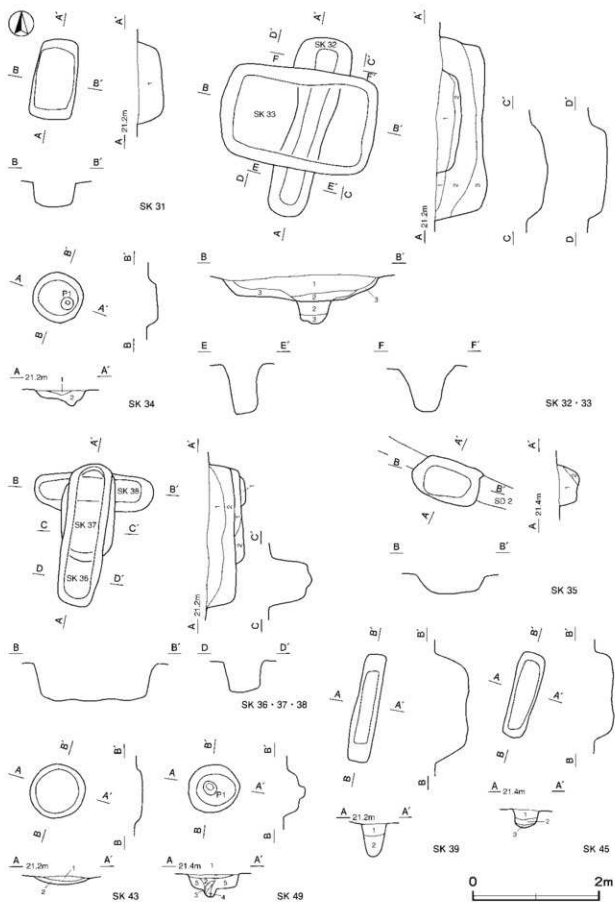
- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量



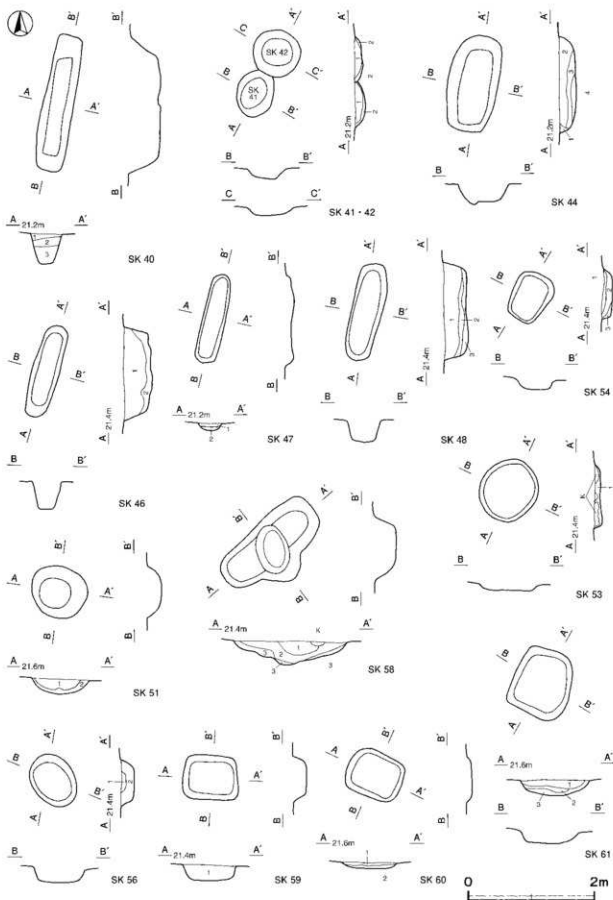
第54図 その他の土坑実測図(1)



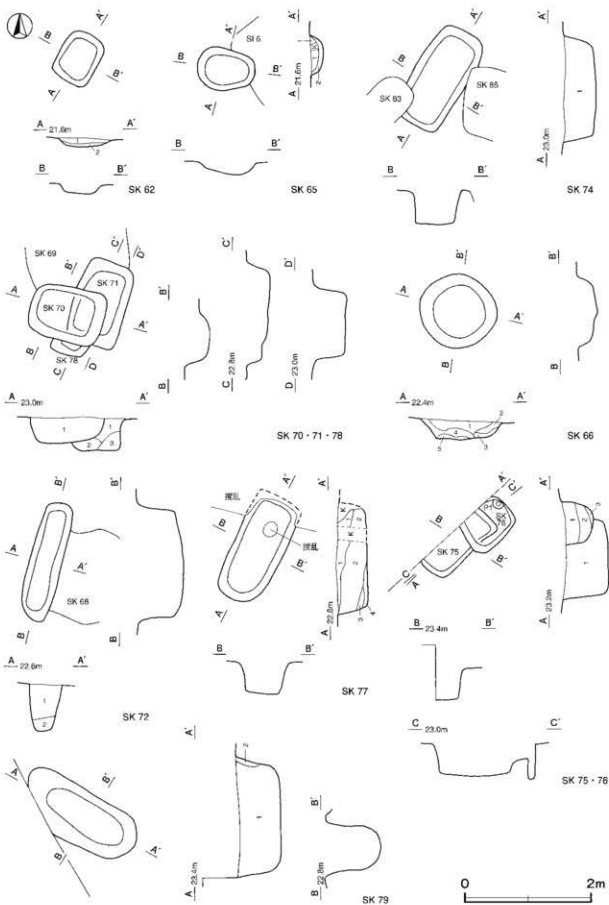
第55図 その他の土坑実測図(2)



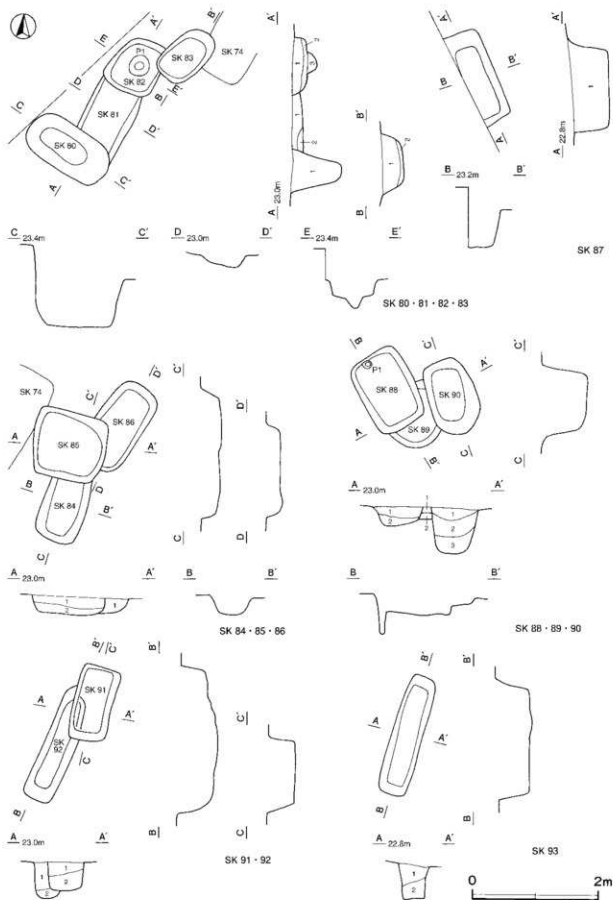
第56図 その他の土坑実測図(3)



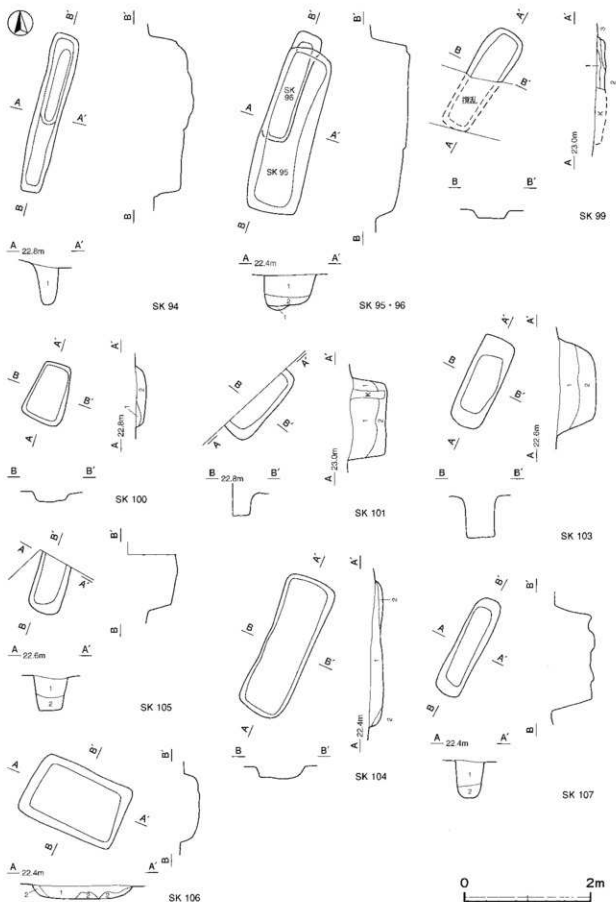
第57図 その他の土坑実測図(4)



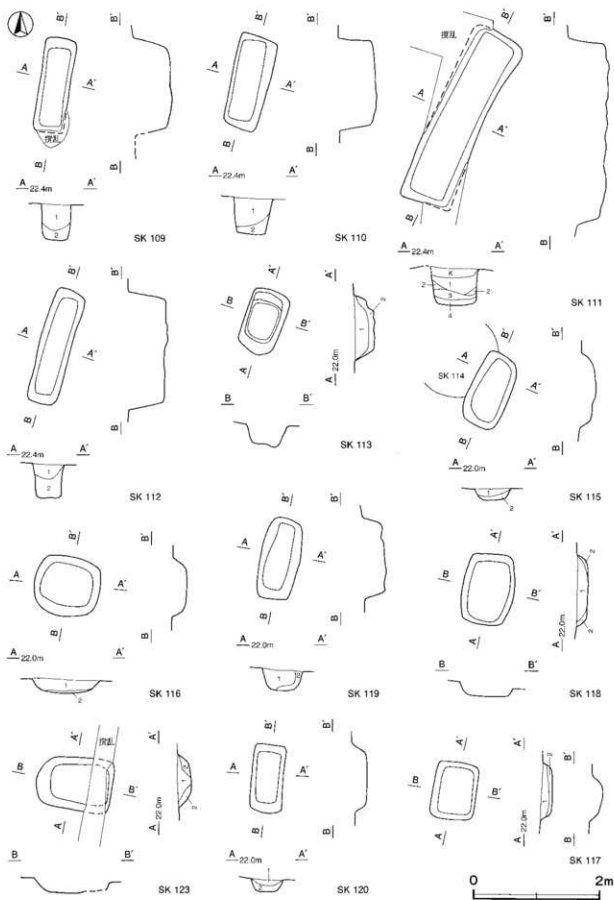
第58図 その他の土坑実測図(5)



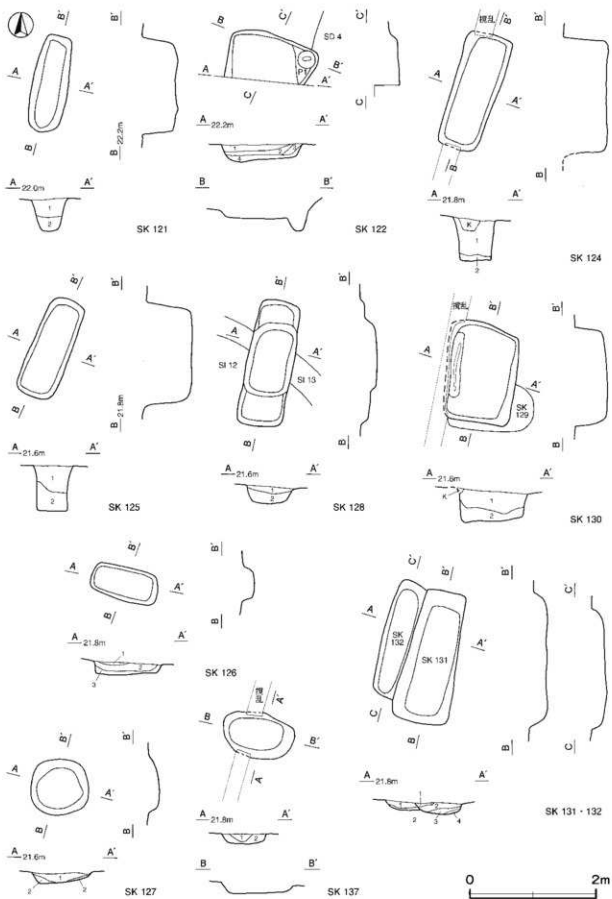
第59図 その他の土坑実測図(6)



第60図 その他の土坑実測図(7)



第61図 その他の土坑実測図(8)



第62図 その他の土坑実測図(9)

第 37 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第 38 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第 39 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第 40 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量

第 41 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第 42 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第 43 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第 44 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第 45 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第 46 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第 47 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第 48 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第 49 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック中量

第 51 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第 53 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量、黒色粒子少量

第 54 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、黒色粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック、黒色粒子中量
- 3 褐色 ロームブロック多量、黒色粒子少量

第 56 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、黒色粒子少量
- 2 に近い黄褐色 ロームブロック多量、黒色粒子少量

第 58 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第 59 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック、焼土ブロック、炭化粒子微量

第 60 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第 61 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第 62 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック、焼土粒子微量

第 65 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第 66 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子、黒色粒子少量
- 2 に近い黄褐色 ロームブロック、黒色粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、黒色粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック、黒色粒子少量
- 5 黄褐色 ロームブロック中量、黒色粒子微量

第 70 号土坑土層解説

- 1 に近い黄褐色 ロームブロック中量、黒色粒子微量

第 71 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、黒色粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、黒色粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、黒色粒子少量

第 72 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第 74 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第 75 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第 76 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第 77 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

第 79 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第 80 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量

第 81 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 褐 色 ロームブロック多量

第 82 号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第 83 号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 85 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第 86 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量

第 87 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量

第 88 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

第 89 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 90 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量

第 91 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 92 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量

第 93 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化物

第 94 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量

第 95 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量

第 96 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量

第 99 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐色 ロームブロック微量

第 100 号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

第 101 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

第 103 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

第 104 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量

第 105 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量

第 106 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 褐 色 ロームブロック多量

第 107 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

第 109 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

第 110 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

第 111 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗 褐色 ロームブロック微量

第 112 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

第 113 号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量、黑色粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量、黑色粒子微量

第 115 号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・黑色粒子微量
- 2 灰褐色 ロームブロック中量、黑色粒子微量

第 116 号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・黑色粒子中量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・黑色粒子少量

第 117 号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・黑色粒子中量、炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量、黑色粒子微量

第 118 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック多量

第 119 号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック多量

第 120 号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量

第121号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・黒色粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・黒色粒子少量

第122号土坑土層解説

- 1 黒褐色 黒色粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 黒色粒子中量、ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・黒色粒子中量

第123号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・黒色粒子中量
- 2 に深い黄褐色 ロームブロック多量、黒色粒子微量

第124号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、黒色粒子中量
- 2 黒褐色 ロームブロック・黒色粒子少量

第125号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、黒色粒子中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、黒色粒子少量

第126号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・黒色粒子微量
- 2 黒褐色 黒色粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 黒色粒子中量、ロームブロック少量

第127号土坑土層解説

- 1 黒色 黒色粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 に深い黄褐色 ロームブロック中量

第128号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量
- 2 黒色 ロームブロック中量

第130号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第131号土坑土層解説

- 1 に深い黄褐色 ローム粒子中量、黒色粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 黒色粒子中量、ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・黒色粒子少量、焼土ブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック多量、黒色粒子微量

第132号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第137号土坑土層解説

- 1 黒褐色 黒色粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 に深い黄褐色 ロームブロック中量、黒色粒子微量

表10 その他の土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径(横)・方角	規模(m, 深さ12cm)		傾 斜	底 面	ベツト	覆土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径(横)×短径(縦)	深さ						
8	B 4 15	隅丸長方形	N-14°-E	1.42 × 0.90	36	緩斜	起伏	-	人為	-	
9	B 4 15	長 方 形	N-13°-E	1.65 × 0.60	65	外傾	平坦	-	人為	土師質土器	
10	B 4 15	長 方 形	N-16°-E	1.50 × 0.61	73	外傾	平坦	-	人為	縄文土器・弥生土器・陶器	
11	B 4 15	長 方 形	N-13°-E	1.50 × 0.56	50	外傾	平坦	-	人為	土師器・土師質土器	本跡→SK12
12	B 4 15	隅丸長方形	N-8°-W	2.07 × 0.65	12	緩斜	平坦	-	人為	-	SK11→本跡
13	C 4 a5	隅丸長方形	N-37°-E	1.62 × 0.70	109	中位に段	平坦	-	人為	弥生土器・土師器・陶器	
14	C 4 a5	不整長方形	N-6°-E	2.42 × 0.80	80	中位に段	平坦	-	人為	-	
15	C 4 b4	隅丸長方形	N-6°-E	2.79 × 0.60	33	外傾	平坦	-	人為	縄文土器・陶器	
16	C 4 b4	隅丸長方形	N-10°-E	1.60 × 0.65	58	外傾	平坦	-	人為	縄文土器	
17	C 4 a3	隅丸長方形	N-9°-E	1.90 × 1.08	30	緩斜	平坦	-	人為	縄文土器・土師質土器	本跡→SK18
18	C 4 a3	隅丸長方形	N-9°-E	2.35 × 0.49	62	外傾	平坦	-	人為	-	SK17・20→本跡
19	C 4 a3	方 形	-	0.62 × 0.60	7	緩斜	起伏	-	自然	-	
22	C 4 a3	隅丸長方形	N-20°-E	1.49 × 0.80	31	外傾	平坦	-	人為	土師器・陶器	SD 1→本跡
23	C 4 a2	隅丸長方形	N-6°-W	1.68 × 0.59	28	外傾	平坦	-	人為	土師器・土師質土器・陶器	SD 1→本跡
24	C 4 a3	楕 円 形	N-83°-E	1.04 × 0.84	45	外傾 緩斜	平坦	1	人為	-	SD 1→本跡
25	B 4 13	楕 円 形	N-45°-E	1.12 × 0.65	37	緩斜	起伏	-	人為	-	SD 1→本跡
26	C 4 a2	隅丸長方形	N-10°-E	1.83 × 0.53	80	外傾	平坦	-	人為	土師器	SD 1→本跡→SK27
27	C 4 a2	長 方 形	N-87°-W	1.88 × 1.03	20	緩斜	平坦	-	人為	土師器	SK26, SD 1→本跡
28	B 4 14	楕 円 形	N-29°-E	1.06 × 0.68	11	緩斜	平坦	-	人為	土師器・土師質土器・陶器	SD 1→本跡
29	B 4 13	楕 円 形	N-87°-E	0.67 × 0.43	13	緩斜	平坦	-	人為	-	
30	B 4 11	円 形	-	1.25 × 1.24	17	緩斜	平坦	-	自然	縄文土器	

番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模(m, 深さ12cm)		敷 面	底 面	ビツト	覆土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ						
31	B 310	長方形	N-7'-E	1.29 × 0.68	40	外様	平坦	-	人為	縄文土器、弥生土器、土器片鏝	
32	B 312	隅丸長方形	N-14'-E	2.92 × 0.88	79	外様	平坦	-	人為	陶器	本跡→SK33
33	B 312	長方形	N-80'-W	2.47 × 1.57	28	縦割	平坦	-	人為	縄文土器、弥生土器、陶器、骨状土鏝	SK32→本跡
34	B 413	円形	-	0.82 × 0.79	16	縦割	凹凸	1	自然	縄文土器	
35	B 4e1	不整形円形	N-70'-W	1.09 × 0.65	30	外様	平坦	-	人為	弥生土器、土師器	SI 2→本跡
36	C 3a0	隅丸長方形	N-7'-E	2.30 × 0.68	48	外様	平坦	-	人為	縄文土器、土師器	SK37、38→本跡
37	C 3a0	楕円形	N-5'-E	1.55 × 0.82	64	外様	凹凸	-	人為	-	SK38→本跡→SK36
38	C 3a0	隅丸長方形	N-87'-W	1.89 × 0.59	61	外様	凹凸	-	人為	縄文土器、土師器	本跡→SK36、37
39	B 319	長方形	N-11'-E	1.74 × 0.39	53	縦割	凹凸	-	人為	縄文土器	
40	B 319	長方形	N-9'-E	2.16 × 0.49	51	縦割	凹凸	-	人為	縄文土器、土師器、灰土器	
41	B 318	楕円形	N-22'-E	(0.72) × 0.59	17	縦割	平坦	-	自然	-	本跡→SK42
42	B 318	円形	-	0.75 × 0.75	14	縦割	平坦	-	人為	土師器、陶器	SK41→本跡
43	B 317	円形	-	0.88 × 0.83	11	縦割	平坦	-	自然	-	
44	B 317	隅丸長方形	N-9'-E	1.53 × 0.79	28	縦割	平坦	-	人為	縄文土器	
45	B 316	隅丸長方形	N-16'-E	1.40 × 0.42	29	外様 縦割	凹凸	-	人為	縄文土器、弥生土器	
46	B 316	隅丸長方形	N-16'-E	1.50 × 0.44	43	外様	平坦	-	人為	縄文土器、陶器	
47	B 317	隅丸長方形	N-12'-E	1.42 × 0.37	14	外様	凹凸	-	人為	陶器、釘	
48	B 316	隅丸長方形	N-10'-E	1.53 × 0.51	34	外様	平坦	-	人為	縄文土器、弥生土器	
49	C 3a5	円形	-	0.80 × 0.75	22	縦割	平坦	1	人為	弥生土器、土師器	
51	B 314	円形	-	0.89 × 0.82	23	縦割	平坦	-	人為	土師器	
53	B 3a9	円形	-	1.01 × 0.92	10	縦割	平坦	-	人為	縄文土器、弥生土器	
54	B 3a9	長方形	N-31'-E	0.80 × 0.60	15	外様 縦割	平坦	-	人為	-	
56	B 3a8	楕円形	N-36'-W	0.86 × 0.68	20	外様 縦割	平坦	-	人為	弥生土器、土師器	
58	B 3c7	不整形長方形	N-50'-E	1.78 × 1.00	35	外様 縦割	凹凸	-	自然	土師器	
59	B 3a7	長方形	N-87'-W	0.85 × 0.71	22	外様	平坦	-	人為	縄文土器	
60	B 3a6	長方形	N-67'-W	0.88 × 0.71	8	縦割	平坦	-	人為	-	
61	B 315	長方形	N-21'-E	1.07 × 0.96	20	縦割	平坦	-	人為	縄文土器、弥生土器、陶器	
62	B 316	長方形	N-32'-E	0.82 × 0.64	15	縦割	平坦	-	人為	-	
65	B 3a6	楕円形	N-87'-W	0.91 × 0.70	16	縦割	畚状	-	人為	弥生土器	SI 6→本跡
66	B 3d1	円形	-	1.26 × 1.15	30	外様	平坦	-	人為	-	
70	B 2d7	長方形	N-78'-W	1.16 × 0.84	36	外様	平坦	-	人為	陶器	SK00、71、78→本跡
71	B 2d7	長方形	N-19'-E	1.32 × 0.86	54	外様	平坦	-	人為	-	SK09、78→本跡→SK70
72	B 2e9	隅丸長方形	N-14'-E	1.90 × 0.52	73	外様	平坦	-	人為	弥生土器	SK68→本跡
74	B 2c7	長方形	N-29'-E	1.70 × 0.82	53	外様	平坦	-	人為	-	本跡→SK83、85
75	B 2c7	[長方形]	N-45'-E	1.25 × (0.66)	50	直立	平坦	-	人為	-	本跡→SK76
76	B 2c7	[長方形]	N-45'-E	0.83 × (0.60)	28	直立	平坦	1	人為	-	SK75→本跡
77	B 2c8	[長方形]	N-27'-E	(1.80) × 0.81	49	外様	平坦	-	人為	陶器	
78	B 2d7	不定形	N-15'-E	0.55 × (0.20)	24	外様	平坦	-	-	-	本跡→SK70、71
79	B 2d7	隅丸長方形	N-55'-W	2.00 × 0.87	85	外様	平坦	-	人為	縄文土器、瓦	
80	B 2d7	隅丸長方形	N-53'-W	1.40 × 0.74	76	外様	平坦	-	人為	-	SK81→本跡
81	B 2d7	[長方形]	N-23'-E	(0.90) × 0.77	18	外様 縦割	傾斜	-	人為	-	本跡→SK80、82
82	B 2d7	長方形	N-30'-E	0.93 × 0.82	24	外様	平坦	1	人為	釘	SK81→本跡→SK83
83	B 2d7	隅丸長方形	N-40'-E	0.95 × 0.60	35	外様	平坦	-	人為	釘	SK74、82→本跡
84	B 2d8	[長方形]	N-12'-E	(1.00) × 0.65	28	縦割	平坦	-	-	-	本跡→SK85

番号	位置	平面形	長径(軸)方角	規模 (m, 深さ12cm)		壁 面	底 面	ビツト	覆土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ						
85	B 2c8	方 形	-	1.18 × 1.10	30	縦斜	平坦	-	人為	-	SK84・86→本跡
86	B 2c8	長 方 形	N-32°-E	1.46 × 0.73	23	縦斜	平坦	-	人為	-	本跡→SK85
87	B 2c7	[長方形]	N-27°-W	1.50 × (0.55)	59	外傾	平坦	-	人為	-	
88	B 2c7	長 方 形	N-33°-W	1.24 × 0.87	34	外傾	平坦	1	人為	-	SK89→本跡
89	B 2c7	[楕円形]	N-9°-E	1.10 × (0.60)	19	縦斜	平坦	-	人為	-	本跡→SK88・90
90	B 2c7	隅丸長方形	N-22°-W	1.20 × 0.80	68	外傾	平坦	-	人為	-	SK89→本跡
91	B 2c8	長 方 形	N-13°-E	1.20 × 0.62	45	外傾	平坦	-	人為	磁器	SK92→本跡
92	B 2c8	[長方形]	N-23°-E	(1.88) × 0.50	69	縦斜	平坦	-	人為	-	本跡→SK91
93	B 2c8	長 方 形	N-15°-E	1.93 × 0.48	48	外傾	平坦	-	人為	陶器・釘	
94	B 2c8	長 方 形	N-14°-E	2.55 × 0.44	67	外傾	凹凸	-	人為	-	
95	B 2c8	長 方 形	N-16°-E	2.61 × 0.86	49	外傾	平坦	-	人為	縄文土器・土師器	SK96→本跡
96	B 2c8	長 方 形	N-20°-E	1.80 × 0.45	57	外傾	平坦	-	人為	-	本跡→SK95
99	B 2c8	[長方形]	N-36°-E	(0.95) × 0.62	11	外傾	平坦	-	人為	-	
100	B 2b8	長 方 形	N-21°-E	0.96 × 0.64	15	外傾	平坦	-	人為	-	
101	B 2b9	[長方形]	N-38°-E	1.31 × (0.42)	56	外傾	平坦	-	人為	-	
103	A 2j0	長 方 形	N-25°-E	1.52 × 0.57	61	外傾 縦斜	平坦	-	人為	-	
104	A 3j1	長 方 形	N-23°-E	2.30 × 0.81	18	外傾 縦斜	平坦	-	人為	-	
105	A 3j1	[隅丸長方形]	N-16°-E	(0.91) × 0.52	52	外傾	平坦	-	人為	-	
106	B 2a0	長 方 形	N-67°-W	1.61 × 1.08	26	外傾	平坦	-	人為	縄文土器	
107	B 3c1	隅丸長方形	N-27°-E	1.67 × 0.46	65	外傾	凹凸	-	人為	縄文土器・土師質土器・瓦・陶器	
109	B 2j0	[長方形]	N-8°-E	(1.50) × 0.50	59	外傾	平坦	-	人為	縄文土器・陶器	
110	B 2j0	長 方 形	N-13°-E	1.48 × 0.62	59	外傾	平坦	-	人為	瓦	
111	B 2c9	長 方 形	N-24°-E	2.98 × (0.82)	63	外傾	凹凸	-	人為	陶器	
112	B 2c9	長 方 形	N-16°-E	1.85 × 0.50	63	外傾	凹凸	-	人為	縄文土器・瓦	
113	B 3f2	長 方 形	N-16°-E	1.05 × 0.62	31	外傾	凹凸	-	人為	縄文土器	
115	B 3f2	長 方 形	N-23°-E	1.20 × 0.64	24	縦斜	屈折	-	人為	縄文土器・瓦	SK114→本跡
116	B 3f2	隅丸長方形	N-80°-W	1.06 × 0.95	22	外傾 縦斜	平坦	-	人為	縄文土器・弥生土器	
117	B 3c2	長 方 形	N-8°-E	0.92 × 0.70	18	縦斜	屈折	-	人為	縄文土器・弥生土器	
118	B 3f2	隅丸長方形	N-8°-E	1.12 × 0.84	19	縦斜	平坦	-	人為	縄文土器・弥生土器	
119	B 3i1	長 方 形	N-12°-E	1.31 × 0.63	46	外傾	平坦	-	人為	縄文土器	
120	B 3i1	長 方 形	N-3°-E	1.08 × 0.52	22	外傾	平坦	-	人為	-	
121	B 2j0	隅丸長方形	N-11°-E	1.53 × 0.58	57	外傾	凹凸	-	人為	土師器・土師質土器・陶器・磁器	
122	C 2a0	[長方形]	N-78°-W	1.41 × (0.78)	13	外傾 縦斜	平坦	1	人為	縄文土器・土師器・陶器	SD 4→本跡
123	B 3c3	隅丸長方形	N-83°-W	1.22 × 0.85	19	外傾 縦斜	平坦	-	人為	縄文土器	
124	B 3c3	長 方 形	N-17°-E	(1.95) × 0.75	70	外傾	平坦	-	人為	縄文土器・弥生土器・釘	
125	B 3c3	長 方 形	N-24°-E	1.65 × 0.65	72	外傾	平坦	-	人為	縄文土器・陶器・鉄滓	
126	B 3c3	長 方 形	N-72°-W	1.07 × 0.52	19	外傾	平坦	-	人為	縄文土器・鉄滓	
127	B 3j3	円 形	-	0.92 × 0.90	17	縦斜	平坦	-	人為	縄文土器・石鏡	
128	B 3j2	長 方 形	N-10°-E	2.00 × 0.75	24	中位に 設	平坦	-	人為	縄文土器	SI12・13→本跡
130	B 3j2	[不整長方形]	N-8°-E	1.60 × (1.12)	50	外傾	平坦	-	人為	縄文土器・土師器 知恵部	SK129→本跡
131	B 3j2	長 方 形	N-13°-E	2.14 × 0.93	25	縦斜	平坦	-	人為	縄文土器・土師器 陶器・鉄滓	SK132→本跡
132	B 3i2	[長方形]	N-17°-E	1.87 × (0.44)	23	縦斜	平坦	-	人為	-	本跡→SK131
137	B 3c3	楕 円 形	N-71°-W	1.15 × 0.73	16	縦斜	平坦	-	人為	-	

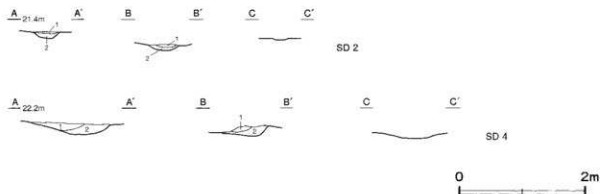
(2) 溝跡 (第3・63図)

第2号溝跡土層解説

- 1 黒色 ロームブロック中量
2 褐色 ロームブロック多量

第4号溝跡土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量
2 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量



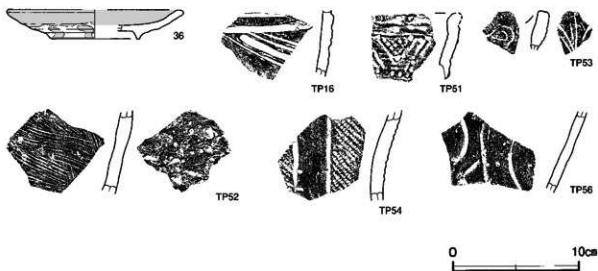
第63図 第2・4号溝跡実測図

表11 その他の溝跡一覧表

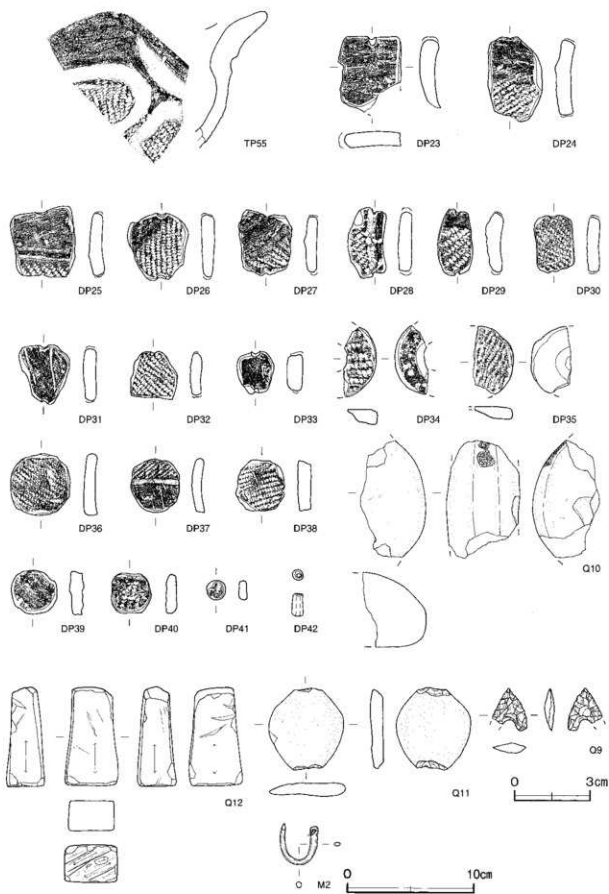
番号	位置	方向	断面形	規模			壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考	
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)						深さ(cm)
2	B3c8-B4e2	N-63°-W	逆台形	(17.50)	0.29 ~ 0.48	0.10 ~ 0.23	10	縦斜	浅いU字	自然	縄文土器	SI 7 → 本跡 → SK35
4	B3f1-C2a0	N-11°-E	逆台形	(19.14)	0.60 ~ 1.64	0.18 ~ 0.51	17	縦斜	平坦	人為	縄文土器・土師質土器	SI11 → 本跡 → SK122

(3) 遺構外出土遺物 (第64・65図)

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。



第64図 遺構外出土遺物実測図(1)



第65図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表 (第 64・65 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・施釉	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
36	陶器	甕	[136]	23	[72]	緻密 長石釉	にぶい黄	良好	陶反形 傾り出し高台	確認面	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	横位及び斜位の沈線文	SK73	PL13
TP51	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	低い細線短文で帯掛け状に区画し斜交文を充填 区画文交点に片置状工具で押延文を付加 内面染黒文	SI11	PL13
TP52	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒黒	外・内面ともに染黒文	SK63	
TP53	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	底面部の外・内面をともに沈線で文様を描出し、形目を充填	確認面	
TP54	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄	2条一組の沈線による懸垂文間を磨り消し LRの単筋縄文	確認面	PL13
TP55	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明焼	沈線による楕円形区画文 RLの単筋縄文	確認面	
TP56	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄	沈線によって文様を描出	確認面	PL13

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔徑	重量	胎土	特徴	出土位置	備考	
DP23	土器片断	(60)	5.0	1.6	-	(45.0)	長石・石英 赤色粒子	口縁部片を利用 一部欠損 無文	両端・側面にキザミ 周縁部研磨	SI 2	PL13
DP24	土器片断	67	4.4	1.6	-	40.3	長石・石英 赤色粒子	両端にキザミ	周縁部研磨 LRの単筋縄文	確認面	
DP25	土器片断	56	5.3	1.3	-	40.1	長石・石英・雲母	両端にキザミ	周縁部研磨 RLの単筋縄文	確認面	
DP26	土器片断	54	4.8	1.0	-	28.2	長石・石英 赤色粒子	両端にキザミ	周縁部研磨 LRの単筋縄文	確認面	PL13
DP27	土器片断	52	4.3	1.1	-	25.8	長石・石英・雲母	両端にキザミ	周縁部研磨 RLの単筋縄文	確認面	PL13
DP28	土器片断	56	3.1	1.1	-	18.3	長石・石英・雲母	口縁部片を転用 両端にキザミ 周縁部研磨 RLの単筋縄文	確認面	PL13	
DP29	土器片断	53	2.8	1.4	-	18.8	長石・石英・雲母 赤色粒子	両端にキザミ	周縁部研磨 RLの単筋縄文	確認面	PL13
DP30	土器片断	46	3.3	1.1	-	20.1	長石・石英	両端にキザミ	周縁部研磨 RLの単筋縄文	SD 1	PL13
DP31	土器片断	47	4.1	1.1	-	20.0	長石・石英・ 赤色粒子	両端にキザミ	周縁部研磨 沈線文	確認面	PL13
DP32	土器片断	38	3.8	0.9	-	14.7	長石・石英	両端にキザミ	周縁部研磨 LRの単筋縄文	確認面	
DP33	土器片断	33	3.0	1.3	-	13.2	長石・石英・ 赤色粒子	両端にキザミ	周縁部研磨 無文	確認面	
DP34	土器片断	(54)	(27)	1.2	-	(15.3)	長石・石英	周縁部研磨 一部欠損 有孔 RLの単筋縄文	確認面		
DP35	土器片断	(53)	(32)	1.1	-	(16.1)	長石	周縁部研磨 一部欠損 内面から穿孔を施す RLの単筋縄文	表土		
DP36	土器片断	49	4.9	1.2	-	26.9	長石・石英	周縁部研磨 RLの単筋縄文	確認面	PL14	
DP37	土器片断	42	3.9	1.0	-	15.6	長石・石英・ 赤色粒子	周縁部研磨 沈線文 LRの単筋縄文	確認面	PL14	
DP38	土器片断	41	3.9	1.1	-	20.2	長石・石英・ 赤色粒子	周縁部研磨 RLの単筋縄文	確認面	PL14	
DP39	土器片断	35	3.7	1.1	-	12.8	長石・石英	周縁部研磨	確認面	PL14	
DP40	土器片断	32	3.3	0.9	-	10.5	長石・石英	周縁部研磨 RLの単筋縄文	SI11		
DP41	土器片断	1.5	1.6	0.7	-	1.9	長石・石英	周縁部研磨	確認面	PL14	
DP42	管状土器	1.8	0.9	-	0.35	1.2	長石	一方から穿孔	SK33		

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 9	石鏡	1.7	(1.3)	0.5	(0.6)	チャート	両面押圧潤滑 四基無基痕	SK127	PL16
Q 10	磨石	(92)	(5.4)	5.8	(340)	ダイサイト	両面・側面に使用痕 敲石併用	確認面	PL16
Q 11	石鉢	65	6.0	1.1	59.0	閃緑岩	扁平な楕円盤を素材 長径方向に傾り調整を施す	SD 1	PL16
Q 12	砥石	7.8	4.3	3.2	14.7	珪藻質泥岩	5面を使用	確認面	PL16

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 2	天押針*	32	3.0	0.5	6.7	銅	基部に2段の溝と円孔 円孔に針金残存 断面楕円形	確認面	

第4節 ま と め

児松遺跡は、平成18年度に行われた第1次調査において、縄文時代の竪穴住居跡1軒、陥し穴1基、土坑1基が確認されており、台地の広がりや遺構の分布状況から、集落は北西方向に延びるものと想定されている¹⁾。今回の調査では、新たに縄文時代の竪穴住居跡4軒、土坑19基、弥生時代の竪穴住居跡7軒、古墳時代の竪穴住居跡2軒などが確認でき、縄文時代中期後葉から後期初頭、弥生時代後期、古墳時代前期の集落跡であることが明らかになった。ここでは、住居跡が確認されている時代を中心に、調査の成果を記述する。

1 縄文時代

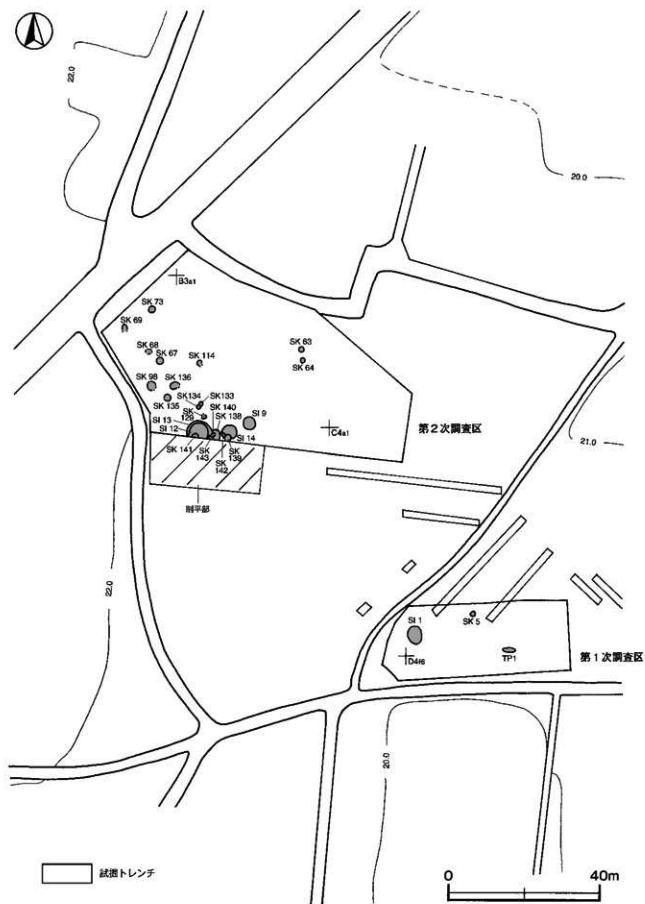
竪穴住居跡は、中期後葉から後期初頭の住居跡4軒を確認した。このうち、出土量が比較的多く、遺存状態が良好な第9号住居跡の土器（第6図）について検討し、時期について考えてみる。

1の深鉢は、土器埋設ピットから出土しており、時期決定の指標となる土器である。南壁際の床面を掘り込み、底部を欠く個体が正位で埋設されており、埋壘として利用されたことが想定される。微隆帯と単節縄文で加飾された把手は円孔を有し、口唇部直下には微隆帯が巡っている。逆U字文の帯状無文部はせり上がり、口縁部に抜けている。胴部は微隆帯によって文様が描出され、区画内にはLRの単節縄文が充填されている。また、覆土上層から散在して出土している3の深鉢は、微隆帯で区画された文様の下端部が接して、長楕円文になっている。これらの土器は、後期初頭の称名寺I式に併行する加曾利E式系の土器群²⁾と考えられ、今回の調査で確認できた当該期の土器の中で、主体を成す土器群である。

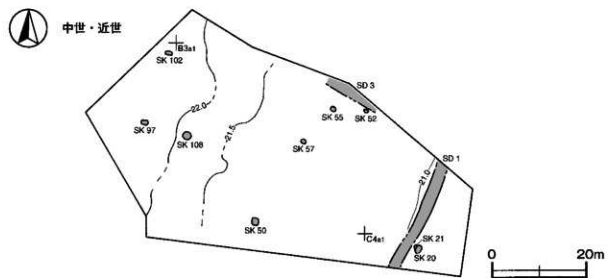
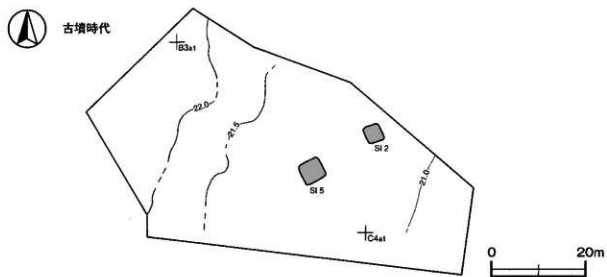
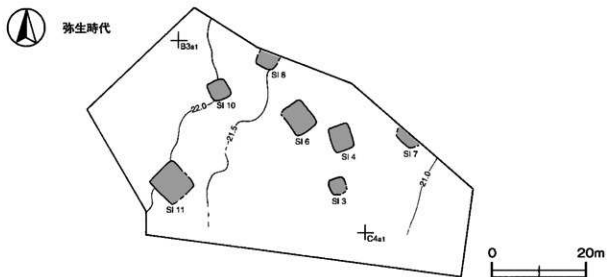
第12号住居跡の炉（第7・8図）は、土器片囲炉である。炉の構築に使用された4の深鉢は、炉床を囲み全周しているが、接合関係では北東部と南西部の相対する位置でそれぞれ確認された破片が接合している。胎土や文様構成から同一個体の土器片が使用されたと考えられるが、接合関係から1個体の土器をそのまま埋設したとは考えにくい。さらに、4の深鉢とは別個体と考えられるTP1～TP3も炉囲いの土器片として使用されている。当住居跡の炉は一見すると土器埋設炉と認識されるが、上記の点から土器片囲炉として認識されるべきものである。

土坑の時期は中期後葉から後期初頭であり、後期初頭（称名寺I式期）が主体である。第139号土坑の覆土中層からは、投棄された貝が出土している。貝種は鹹水種のハマグリ・シオフキ・サルボウ類であり、当時の霞ヶ浦は太平洋とつながる内海であったことを裏付けている。また表土からの出土も含め、魚網具として土器片錘が多数出土しているが、石錘はわずか1点しか出土していない。これらの遺物からも、内湾性の漁業活動が想定³⁾でき、遺跡の立地する台地周辺まで内海が進入していたことがうかがえる。

第1次調査で確認された住居跡や土坑の時期は中期後葉と考えられ、今回の調査で確認できた住居跡とは、わずかに時期差が認められる。第1次調査の報告では、台地の平坦面が北西方向に広がっていることから、集落の広がりも同様に展開する可能性を述べている（第66図）。第1次調査区から北西方向約50mに位置する今回の調査区では、中期後葉から後期初頭にかけての縄文時代の住居跡と土坑群が確認できたが、両調査区に挟まれた平坦な台地部からは、試掘調査では遺構は確認されておらず⁴⁾、集落の中心部については再考の余地がある。今回の調査区で確認できた住居跡と土坑群の配置から、居住域と貯蔵域の区別が想定され、集落の外周部にあたることから推測される。地形的な制約を考慮すれば、集落は両調査区の南西側まで広がりをもち、中心部は同方向に存在したと考えることが自然であろう。



第66図 縄文時代の遺構分布図



第 67 図 弥生時代、古墳時代、中世・近世の遺構分布図

2 弥生時代

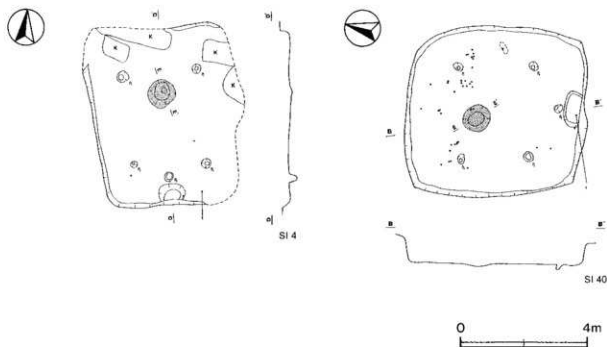
後期前葉を主体とする竪穴住居跡7軒を確認した。出土土器は、頸部に縦方向の区画を有する土器（19・TP36・TP38・TP43～TP45）が主体であり、2～5本の櫛歯状工具によって施文されている。これらの土器から時期は後期前葉⁵⁾と考えられるが、19の壺のように5本の櫛歯状工具を使用するなど多条化の傾向にあり、2段の複合口縁を有する新しい様相を示す土器も存在している。

住居跡は、3～16mの間隔で南北に並んでいる（第67図）。住居の規模や主軸方向など規格性はあまりみられないが、隅丸長方形又は隅丸方形の住居跡からは、概ね炉を中心として（長）方形に配置された主柱穴と壁際から出入り口施設に伴うピットが確認されている。第6号住居跡の南東壁際からは、深さ12cmほどの半円形状の凹みが確認されており（第36図）、当遺跡の所在する小野川流域に同じく位置する長峰遺跡の調査例（第68図）から、貯蔵穴の可能性が考えられる⁶⁾。限られた範囲の調査であるが、住居間の重複もみられず、出土土器にもあまり時期差がないことから、1世代程度の短期の集落であったとみられる。

3 古墳時代

前期の竪穴住居跡2軒を確認した。出土土器は、土師器（碗・器台・鉢・壺・甕）であり、小形埴は器種構成に含まれていない。甕類は器形を復元できる個体が少なく、平底甕のみが確認されている。第2号住居跡から出土した器台（第45図-28）は、受け部が比較的小さく、脚はハの字状に広がっており、受け部の径に対して器高が低く、全体として扁平な印象である。これらの土器様相から、第2号住居跡の時期は、前期前半と考えられる⁷⁾。出土土器からは時期を明確にできなかった第5号住居跡も、第2号住居跡と比較して住居構造の点では若干の違いが見られるものの、主軸方向がほぼ同一のN-22°-25°-Wであり、同時期に存在した可能性が高い（第67図）。

また、第5号住居跡の覆土中層から上層にかけて、投棄された貝（ヤマトシジミ）が出土している。縄文時代後期初頭の第139号土坑からは、前述したように鹹水種のハマグリ・シオフキ・サルボウ類が出土して



第68図 長峰遺跡第4・40号住居跡実測図（註6文献より）

いるが、ヤマトシジミは汽水域に生息する貝種であり、霞ヶ浦の淡水化が進行していく様相がうかがえる。確認された貝の総量は多くはなく断片的な情報ではあるが、ヤマトシジミは大形のものが多く確認されている。捕獲率が低く、比較的広い魚場を有していたことが想定される。

弥生時代及び古墳時代の住居跡で共通する要素として、硬化面が中央部を除く壁際から確認されていることがあげられる。これは当遺跡の住居跡における特徴的な要素であり、住居内における空間利用の違いによって起因するものと考えられるが、この事象に関連づけられる痕跡は他に認められず、今後の調査例の増加を待って検討したい。

4 中世・近世

墓坑の可能性のある土坑9基と溝跡2条を確認した。墓坑の可能性のある土坑は、覆土が埋め戻されておらず、またその形状から墓坑を想定しているが、出土遺物が少なく、時期を明確にすることは難しい。同様に溝跡についても時期判断は難しいが、第1・3号溝跡は走行方向がほぼ直交し、形状も類似する点が多いことから、同時期に存在したものと考えられる(第67図)。墓坑の可能性のある土坑群と溝跡が同時に存在したか否かは、出土土器から判断することは難しいが、第1・3号溝跡はほぼ直交して確認されていることから、本来は土坑(墓坑)群を区画する溝であったことが想定できる。

以上のように、当遺跡は縄文時代中期後葉から後期初頭にかけて集落が形成されたのち、しばらく断絶があり弥生時代の後期前葉になると再び集落が形成されている。比較的短い断絶期間をはさんで古墳時代前期には三度集落が形成されているが、当遺跡の範囲はさらに北東側に広がっており、断絶期としている時期の住居跡が、そこに存在している可能性は否定できない。また、中世・近世においては、墓坑の可能性のある土坑や区画溝の存在から、墓域としても利用されていたことが想定されることを付け加えておきたい。

註

- 1) 本橋弘巳「中峰遺跡 児松遺跡 一般国道468号線首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書」[茨城県教育財団文化財調査報告]第286集 2008年3月
- 2) 谷藤保彦・関根謙二編集「第20回縄文セミナー 中期終末から後期初頭の再検討」縄文セミナーの会 2007年2月
- 3) 渡辺誠「縄文時代の漁業」雄山閣 1973年2月
- 4) 平成18・19年に、茨城県教育委員会によって行われた試掘結果による。報告によれば、第2次調査区の南側は土取りのため、大きく削平されていたことが記載されている。
- 5) 小玉秀成「高浜入り周辺の弥生時代遺跡群」[茨城県考古学協会誌]第9号 茨城県考古学協会 1997年5月
小玉秀成「常総地域における弥生土器編年の大枠」霞ヶ浦沿岸の弥生文化 土器からみた弥生社会 霞ヶ浦郷土資料館 1998年8月
- 6) 中村幸雄・後藤義明「霞ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書19 長峰遺跡」[茨城県教育財団文化財調査報告]第58集 1990年3月
- 7) 浅井哲也「茨城県における古墳時代前期の土器」[領域の研究-阿久津久先生還暦記念論集-] 2003年4月

参考文献

- 江戸崎町史編さん委員会「江戸崎町史」江戸崎町 1997年3月
鈴木素行・中村哲也・小松崎恵子・色川順子「茨城県における縄文時代中期の屋内炉」[日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウム資料集]日本考古学協会2005年度福島大会実行委員会 2005年10月
米澤容一「貼床と硬化面」-構造物としての貼床と使用痕跡としての硬化面-「土壌」第11号 考古学を楽しむ会 2007年5月

写 真 图 版



調査区遠景（南側上空から）

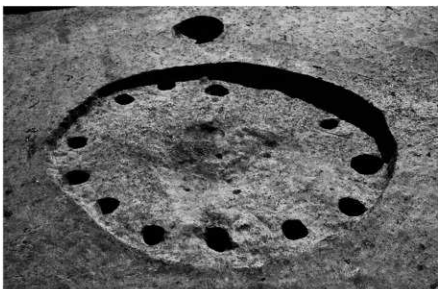


調査区全景

PL2



第9号住居跡
遺物出土状況



第9号住居跡
完掘状況



第12号住居跡
遺物出土状況

第12・13号住居跡
完掘状況



第14号住居跡
完掘状況



第63号土坑
完掘状況



PL4



第 64 号 土 坑
完 掘 状 况



第 67 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 73 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况

第 73 号 土 坑
完 掘 状 况



第 98 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 98 号 土 坑
完 掘 状 况



PL6



第135号土坑
完掘状况



第138・140号土坑
完掘状况



第139号土坑
遺物出土状况

第3号住居跡
完掘状況



第4号住居跡
完掘状況



第6号住居跡
完掘状況



PL8



第8号住居跡
遺物出土状況



第8号住居跡
完掘状況



第10号住居跡
遺物出土状況

第10号住居跡
完掘状況



第11号住居跡
完掘状況



第2号住居跡
遺物出土状況



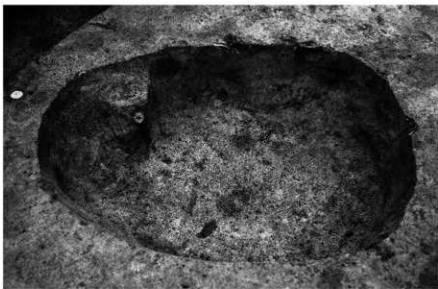
PL10



第5号住居跡
遺物出土状況



第5号住居跡
完掘状況



第52号土坑
遺物出土状況

第 55 号 土 坑
完 掘 状 况



第 108 号 土 坑
完 掘 状 况



第 1 号 沟 跡
完 掘 状 况



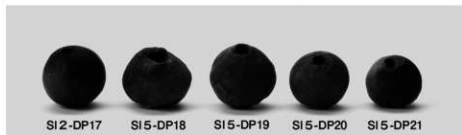




第9号住居跡，第67・68・98・133・136・138・139号土坑，遺構外出土土器，土製品（土器片墜）



土製品（土器片・円盤・紡錘車），第3・6・8・10号住居跡出土土器



第2・4・5・6・8・10号住居跡出土土器，土製品（土玉・管状土錘）



石器（石鎌・敲石・凹石・磨石・石錘・砥石），銭貨，ガラス製品（小玉）

抄 録

ふりがな	こまついせき							
書名	児松遺跡 2							
副書名	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第351集							
著者名	小川貴行 松林秀和							
編集機関	財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2012(平成24)年3月16日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
児松遺跡	茨城県稲敷市江戸崎字原乙460番地ほか	08229 - 441037	35度 56分 54秒	140度 18分 44秒	20 ~ 23m	20090201 ~ 20090331 20090701 ~ 20090731	1,551 m ² 1,080 m ²	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業に伴う事前調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
児松遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡 土坑	4軒 19基	縄文土器、土製品(土器片・土器片円盤)、石器(石鏃・磨石・敲石)、貝(ハマグリ・シオフキ)			
		弥生	竪穴住居跡	7軒	弥生土器、土製品(紡錘車)、石器(石鏃・敲石・凹石)、ガラス製品(小玉)			
		古墳	竪穴住居跡	2軒	土師器、土製品(土玉)、貝(ヤマトシジミ)			
	幕城跡	中世・近世	竪穴の可能性ある土坑 溝跡	9基 2条	土師質土器、陶器、磁器、銭貨(元祐通寶)			
	その他	時期不明	土坑 溝跡	2条	108基 2条			
要約	当遺跡は、縄文時代中期後葉から後期初頭、弥生時代後期、古墳時代前期の集落跡であることが明らかになった。また、中世・近世の幕城の可能性のある土坑、溝跡が確認されており、中世・近世においては幕城として土地利用されていたことが想定される。							

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 7 Home Premium ServicePack1
	編集	Adobe InDesign CS4
	図版作成	Adobe Illustrator CS5
	写真調整	Adobe Photoshop CS5
	Scanning	6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000 図面類 EPSON ES-1000G
	使用Font	OpenType リュウミンPro・L
	写真	線数 モノクロ175線以上 カラー210線以上
	印刷	印刷所へは、Adobe InDesign CS4でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第351集

児松遺跡 2

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成24（2012）年 3月14日 印刷

平成24（2012）年 3月16日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL. 029-225-6587
H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 (有)川田プリント

〒310-0041 水戸市上水戸4丁目6-53
TEL. 029-253-5551